



第9回全国川サミットin宮川
報告書

- 編集／全国川サミットin宮川実行委員会事務局 宮川村企画調整課内
〒519-2592 三重県多気郡宮川村大字江馬316番地 TEL05987-6-1712 FAX05987-6-0906
- 発行者／全国川サミット連絡協議会・三重県宮川村
- 主催／全国川サミット連絡協議会・三重県宮川村
- 後援／国土交通省・三重県・(財)河川環境管理財団・(社)中部建設協会・三重県河川海岸協会・宮川流域ルネッサンス協議会

第9回 全国川サミット in 宮川 報告書

REPORT



9TH JAPAN RIVER SUMMIT
IN MIYAGAWA





第9回 全国川サミットin宮川



報告書

第9回 全国川サミットin宮川



報告書発刊にあたって

全国川サミット連絡協議会会長
宮川村長 尾上 武 義

平成12年10月第9回全国川サミットin宮川を開催いたしましたところ、全国16市町村から大勢の皆様にご参加いただき、大変有意義な大会として閉幕することができました。また、事前事業として、初めて取り組みました8月のこども川サミットも、全国や宮川流域の市町村から大勢の小学生のみなさんに参加をいただき、思い出深い充実したものとなりました。

これもひとえに、川に熱い思いを抱く市町村の皆様の温かいご理解とご協力、ご支援の賜物と厚くお礼申し上げます。

この冊子は、「川に愛される人になりたい。」をテーマに開催いたしました今回のサミットの記録集として作成いたしました。

本村は、今回のサミットを、宮川らしさにあふれた、そして少しでも後に残る有意義な取り組みにしたいと考え、明日の宮川を担うこどもたちを中心に実施させていただきました。

IT革命に象徴されますように、情報化の波が全国をかつてない速さで押し寄せております。今回、共同宣言していただきましたように、インターネット等を通して、川でつなぐ全国の学校が、こどもたちが自由に情報の交換を行い、楽しく交流できるよう、そして、川に愛される人になるにはどうすればよいのか、互いに学びあう川のネットワークづくりにご協力をお願いするものでございます。

今回のサミットの成果をまとめました本誌を21世紀の川づくりの参考としていただければ幸いと存じます。

最後になりましたが、本サミットの開催に際しまして、ご指導ご支援を賜りました国土交通省、三重県、(財)河川環境管理財団、(社)中部建設協会、三重県河川海岸協会、宮川流域ルネッサンス協議会、関係団体、ボランティアの皆様方に心から厚くお礼申し上げますとともに、皆様方の益々のご発展を祈念し、発刊のご挨拶といたします。

メインテーマ

川に愛される人になりたい

～ちよつとすてきな川家族～

川はまったくええとこやにやあ
楽しく遊べるええとこやにやあ
ようみたらいろんなことがわかるやろ

アコにアマゴにカワゲラ、ほたる
～ちよつとすてきな川家族～

川いじめるやつは、めちやくちゃごうわくわ
ほくらが守るんぞ
みんなぞ守るんぞ

～ちよつとすてきな川家族～
今日からすてきな川家族

宮坊より



三重宮川村イメージキャラクター

もくじ

発刊にあたって	1
メインテーマ	2
川サミット記録写真集	3
総合プログラム	7
全国川サミット連絡協議会総会	8
全国川サミットシンポジウム開会式	15
全国川サミットシンポジウム	20
こども川サミット宣言文	37
川サミット宣言文	38
宮川小児童によるよびかけ	39
こども川サミット(川の学校)プログラム	41
川の学校出席簿	42
川の学校記録写真集	43
川の学校発表会結果報告	49

全国川サミットin宮川記録写真集



宮リバー度会パーク



ふるさとプラザ もみじ館



総会会場到着



総会



歓迎会 栗谷神楽



歓迎会



宮川ダム視察



川の学校開催場所視察



総会



総会



シンポジウム開会宣言 宮川村助役 真伏秀樹



会長挨拶 宮川村長 尾上武義

全国川サミットin宮川記録写真集



来賓挨拶 三重県副知事 上田 紘士



来賓挨拶 中部地方建設局 河川部長 小林 一朗



かわ〜った写真コンテスト表彰



こども川サミット宣言 松林 祐輔 森下 沙紀



奥伊勢宮川清流太鼓ジュニア
シンセサイザーと共演



宮川小学校全児童によるよびかけ



川サミット宣言



川サミット旗受渡式



討論会



討論会



閉会のことば 宮川村収入役 浦中 優



交流会

第9回全国川サミットin宮川 プログラム

1日目 10月13日(金)

時間	プログラム	会場
13:00~14:00	受付	宇治山田駅
14:00~16:00	宮川下流域視察(伊勢市~宮川村)	
16:30~17:30	全国川サミット連絡協議会総会	宮川村林業総合センター
18:00~20:00	歓迎会	奥伊勢フォレストピア

2日目 10月14日(土)

時間	プログラム	会場
8:30~11:50	宮川上流域視察	村内
12:00~12:50	昼食	宮川小学校
13:00~13:30	シンポジウム開会式 会長挨拶・来賓祝辞・来賓紹介	宮川小学校体育館
13:30~13:50	参加自治体紹介	
13:50~14:00	こども川サミット(川の学校)の報告	
14:00~14:15	休憩	
14:15~14:45	宮川小学校全児童による群読発表 (奥伊勢宮川清流太鼓、シンセサイザーと共演)	宮川小学校体育館
14:45~16:15	こども川サミット等をテーマとした討論会	
16:15~16:25	かわ~った写真コンテスト表彰	
16:25~16:35	こども川サミット宣言	
16:35~16:45	川サミット宣言	
16:45~16:50	川サミット旗受渡式	
16:55	閉会	
18:00~20:00	交流会	奥伊勢フォレストピア

3日目 10月15日(日)

時間	プログラム	会場
9:00	解散	奥伊勢フォレストピア

第9回全国川サミット連絡協議会総会

日時：平成12年10月13日(金)
場所：林業総合センター

司会 皆様こんにちは、ようこそ宮川村へお越し下さいました。本日の司会を務めさせていただきます、宮川村教育委員会の小掠と申します。どうぞよろしくお願い申し上げます。

それでは、ただ今から平成12年度全国川サミット連絡協議会の総会を始めさせていただきます。開会にあたりまして会長であります宮川村長尾上武義がご挨拶を申し上げます。

宮川村長 宮川村長の尾上でございます。第9回の全国川サミットin宮川の開催にあたりまして一言歓迎のご挨拶を申し上げたいと存じます。

皆様方には、全国各地からこの宮川村にお越しをいただきまして誠にありがとうございます。熱く御礼を申し上げますと共に大変光栄にも存じております。また、平素当連絡協議会の運営にあたりまして種々ご高配をいただきましてあわせて御礼を申し上げます。

この宮川は、紀伊半島の中央部を縦貫いたします台高山脈の主峰であります大台ヶ原を源といたしまして、伊勢湾に注ぐ約90キロメートル強の三重県下最大の一級河川であります。宮川村はその最上流部に位置する人口4,000人余りの村であり、村全域が吉野熊野国立公園あるいは、奥伊勢宮川狭県立自然公園という自然公園に包含をされている所であります。全面積の96%が森林ということでございまして、文字どおり純山村であります。近年の木材価格の低迷によりまして林業経営は非常に厳しい状況でありますことは皆さんよくご承知のところでございます。しかし、森林は、水を育むベースになります事から今後とも森林整備につきましては、重点的に進める中で、良質でそしてまた水量豊かな水環境を構築していきたいと考えているところであり、このような中で今回のサミットを迎えたわけでありまして。私共は、人と自然との共生を、川を介した教育を通じて21世紀を担う子供達が、もっと自然とふれあい、関わってほしいと言う思いからこの8月に全国こども川サミットを開催させていただきました。今回は、その子供達の提言等を受けましてシンポジウム

を進めたいと思っておりますのでどうぞご協力を賜りますようお願いいたします。尚、昨年は、私共も愛媛県の肱川町さんに御邪魔をさせていただきました。それ以来、今日という日に備えたのですが、至らない点が多々在ろうかと思っております、その点ご容赦をいただきたいと思っております。また、各自治体さんには、それぞれ担当者をつけさせていただいておりますのでご遠慮なくお申し付けをいただきたいと思っております。それでは、今サミットが実のあるサミットに成りますことを心から御祈念を申し上げまして、甚だ簡単ではございますが私の歓迎のご挨拶に代えさせていただきます。

どうもありがとうございました。

司会 どうもありがとうございました。

続きまして、事務局であります、企画調整課長の小掠から参加状況のご報告を申し上げます。

企画調整課長 それでは、お手元の総会資料8ページをご覧くださいと思います。

今回のサミットには、北海道の鶴川町さんをはじめ、計17自治体88名の皆様にご参加をいただいておりますことをここに報告を申し上げます。

司会 恐れ入りますが、ここで参加自治体の皆様から自己紹介をお願い申し上げます。

まず、昨年度の開催地、愛媛県肱川町の犬野町長様、そして鶴川町長様へと順にお願いいたします。

肱川町 昨年、開催地でございました愛媛県肱川町でございます。

昨年の第8回サミットには、たくさんの皆さんがご参加をいただきまして盛大に開催出来たことを大変ありがたく思っております。後ほどまた担当から色々経過をご報告致しますが、立派に終了出来たことを大変うれしく思っております。その時にお配りをいたしました「川の

原簿」、そして今年は、「土地の原簿」と言うのを手がけてやっております。サミットを契機といたしまして肱川町でも様々な川への想いというものを何らかの形でということで現在も色々考えているところでございます。

どうもありがとうございました。

鶴川町 北海道の鶴川町の町長でございます、山口でございます。

私事ですが、昨年の統一選挙の中で初めて就任をさせていただいている訳でございます。

私共の町、第2回目の川サミットを開催をさせていただいた所でございます。本日は、ご出席をさせていただきまして改めてお礼と感謝を申し上げます。

どうぞよろしくお願い申し上げます。

雄物川町 秋田県の雄物川町の町長の佐々木と申します。

私も、この5月に初当選してまだ新人はやほやの状態であります。

今日は、本当にこういう貴重な会に参加出来まして本当にうれしく思っております。

どうか、よろしくお願いいたします。

滑川町 埼玉県の滑川町の上野と申します。

今日、参加させていただく中では、一番短く小さな川の所でございます。

今日は、また色々お世話になります。よろしくをお願いいたします。

江戸川区 江戸川区の土木部の計画課長の高井でございます。

本日は、江戸川区の方、議会中でございます、私が代理で出席をさせていただいておりますので、よろしくお願いいたします。

庄川町 富山県庄川町から来ました収入役の加藤でございます。町長が出席すべきでございますが、公用がございまして代理でまいりました。庄川町では、第1回の川サミット開催させていただきました。特に年々すばらしい川サミットになってくるな、なってきたなという風に、非

常に感激いたしております。よろしくお願いいたします。

白川町 皆様こんにちは、岐阜県の白川町でございます。助役の細江と申します。よろしく申し上げます。

私共、2回目の出席ということで、もう少し本当は、出席をしてこなければいけなかった訳でございますけれども、ちょっとご無礼をいたしております、今回2回目の出席をさせていただきました。

当宮川の流域におきましては、14市町村でございますが、連合を組まれて、もう数年経っておるといって伺っておりますけれども、私共も昨年でございますが3つの町と村で流域連合を立ち上げたのでございます。ですがまだなかなか、地についておらないということでございますので、そのあたりを今回勉強させていただいて、私共の流域連合に役立てていきたいとそうように思っております。

どうぞよろしくお願いいたします。



富士川町 静岡県の富士川町から来ました、本来なら町長、出席すべきところですが今日は、代理で出席させていただきました。

初めて来ましたけれどもどうぞよろしくお願いいたします。

大井川町 こんにちは、静岡県の大井川町からまいりました助役の池田でございます。

実は、町長が来る予定でございましたが、たまたま全国公安の方の総会に出席するという事で代わりに代理で私がうかがった次第でございます。

私共の町も第3回目のサミットでございま

たか、開催をさせていただいた所でございます。以来、鋭意、川への親水性と言いますか、そういう方向での行政を推進いたしているところでございます。

よろしくお願いいたします。ありがとうございます。

菊川町 静岡県菊川町の助役の石川でございます。今日は、町長が来るべきでございましたけれども、地元のお祭りがありまして、町長が出席をしなければならないということで失礼をさせていただきます。

ご存じのとおり菊川町というのは、全国の有数のお茶の産地でございます、お茶を美味しく飲むためには、水がうまくなければならないと、町といたしましても環境の方には力を注いでおります。今回のこの川サミットを機会にもう一度川のあり方、きれいな水を取り戻すための方策について改めて考えさせていただきたいと思っております。

よろしくお願いいたします。

寝屋川市 こんにちは、大阪府寝屋川市の企画財政部企画室課長の川口でございます。

大阪府で唯一、河川の名前がついております寝屋川でございます。

本日は、どうぞよろしくお願いいたします。

加古川市 兵庫県加古川市の助役の瀬川でございます。

私のところも第4回のサミットを開催させていただきました。その節には遠い所多くご参加いただきまして誠にありがとうございます。この際ですので、ちょっとご紹介したいと思うんですが、私のところ、その4回を契機にその後、「川の絵画大賞展」というのを続けております。年一回、今年で4回目になりまして、昨年も北は北海道から沖縄の方まで参加され、約400名ぐらいの方からご参加いただいております。12月20日が締切ですので、もしか皆様方の中で絵に非常に興味のある方、川の絵ということで一つご参加をお勧めいただきたいと思います。

本日はまた、宮川村の皆様色々お世話になります。よろしくお願いいたします。

十津川村 奈良県十津川村の中上でございます。本日は、助役が出席させていただく予定でございましたが、急きよ、公務出張のため代理で出席させていただきました。

どうかよろしくお願いいたします。

加茂川町 どうもお世話になります。岡山県加茂川町長の片山と申します。

一年ぶりでお元気で皆さんにお目にかかれてうれしく思います。また今年は、こどもサミットと言うことで大勢の子供達が勉強にこさせていただきまして大変ありがとうございました。お礼を申し上げます。なぜか中国地方では、川の名前を町名にとっているところが、私の所だけのようでございます。まだ開催を一度もしておりません。したがって、揖保川の町長がうちが来年やる、つぎはおまえの所がやれよと発破を突は、掛けられておりました色々考えては居るところでございます。また後でご相談をさせていただきます。

どうぞよろしく。

北川町 九州から参りました北川町の盛武でございます。

私とこは、第7回でございました。台風直後ですので、会議でありまして、何かと見苦しい事ばかりでありましたけれども皆様方の御協力をいただきまして無事に会議を終わらせていただきました。その後、河川激特事業が進められておりました、下流域の方は、その当時よりか遙かに見違えるようになりました。あと2年ほどしますと生まれ変わった川になるんじゃないかと、なんかこの川サミットですね、お陰をおっているんじゃないかという風にも思っている訳でありまして、皆様方の御協力にいたしまして熱く御礼を申し上げます。今後ともよろしくお願い申し上げます。

揖保川町 揖保川町長の八木でございます。

実は、川サミットの第1回目の時に私、町長になって最初の年でした。1回目からずっと参加させていただいて2回の鶴川さんだけ参加しなかったという記憶があるのです。それなりの想いはあるわけでして、ただおかげを持ちまし

て私共上流でスポーツを中心とした河川敷の整備を建設省のご協力を得ていただいております。「きらめきスポーツ公園」が完成し、引き続き下流で「水辺の学校」といって、新しい事業で散策を中心とした、子供達が遊べるような、川にふれあうような事業を進みまして「せせらぎ公園」という名前をつけました。今年に桜鼓堤防をやりたいということで進めております。来年は、第10回を揖保川町で行うべく進めておりますのでどうか皆様方是非また来年お越しいただきたいと、思いますのでどうぞよろしくお願いいたします。

司会 どうもありがとうございました。

それでは、議事に入りますが、慣例によりまして議長を会長が務めることになっておりますのでよろしくお願いいたします。

宮川村長 それでは、議事に入らせていただきたいと思っております。円滑に進められますようご協力をお願いしたいと思います。

まず、報告の第1号、第8回全国川サミットin肱川事業報告について、ならびに報告の第2号、第8回全国川サミットin肱川の収支決算報告について上程をさせていただきたいと思っております。肱川町の畦崎社会教育課長さんから報告をお願いしたいと思います。

肱川町社会教育課長 失礼をいたします。

資料の2ページになるかと思いますが、第8回全国川サミットin肱川事業報告、それと並びに決算報告のご説明をしたいと思います。

まず1日目、10月15日なんですが、16時30分から平成11年度全国川サミット連絡協議会の総会を風の博物館の方で参加自治体78名の参加を



得まして行っております。それから会場を移動しまして18時から歓迎会を鹿野川荘の方で参加自治体他90名の参加を得て行っております。翌2日目、10月16日なんですが、8時30分から午前中いっぱい肱川本流域の視察ということで行っております。参加自治体の方72名の参加を得ております。それから13時30分から全国川サミットin肱川シンポジウムという事で中野小学校体育館の方におきまして、参加自治体、流域自治体これは、肱川流域自治体なんですが、建設省、愛媛県、町内関係者、また一般参加者約400名が集まっております。内容としまして14時から参加自治体の紹介をスライドで行っております。14時20分から先ほど町長が申し上げましたように川の原簿の整備ということをやっております。この成果発表を行っております。それから14時30分から基調講演ということで「川上と このかわしもや 月の友 芭蕉」というテーマで関東学院大学の宮村忠先生の講演を行っております。15時30分からパネルディスカッション「美しい川を次代に引き継ぐために」というテーマで愛媛大学の鈴木教授をコーディネーターに肱川町長や尾上村長をはじめ皆さんでパネルディスカッションを行っております。それから17時10分からフォトコンテストと作文・論文の上位入賞者の表彰を行っております。17時30分からサミット宣言。17時40分から川サミット旗の受け渡し式を行っております。それから会場を移動しまして18時30分から交流会ということで風の博物館において、130名の方々に参加していただきまして行っております。

最後の3日目でございますが、10月17日なんですけども関連事業として行いましたドラゴンボートの大会の視察を行い随時解散ということで終わっております。これ以外にもここには、書いてございませんけど関連事業といたしまして川サミットのアートコンテストですとか流域の物産展、川に親しむイベント、そういったことを行っております。以上が事業報告でございますが、次に決算報告の方についてうづらさせていただきます。

項目と決算額のみ説明させていただきます。まず、収入の部分ですが参加自治体負担金

1,700,000円これは、17団体の参加でございました。肱川町補助金6,500,000万円、建設省四国地方建設局助成金10,029,600円、これは原物支給でございます。四国建設弘済会助成金3,199,997円、これも原物支給でございます。愛媛県の助成金3,000,000円、その他としまして河川管理財団、それから愛媛県市町村振興協会助成金ということで3,396,203円、合計しまして27,825,800円が収入の決算額でございます。続きまして支出でございますが、会議費320,603円、これは総会、実行委員会等の会議費でございます。次に流域視察費309,273円、これは流域視察した折りの貸し切りバスあるいは、昼食代でございます。交流会費2,293,644円、歓迎会費と交流会費の支出でございます。記念事業費でございますが17,475,249円、これはシンポジウム費、エッセイ、作文、フォトコンテストの支出で特別出版物を作りました。あるいはビデオ制作費でございます。記念品と記念碑の建立を行っております。こういった支出でございます。広告宣伝費2,927,756円これは、広告物の作製費でございます。事業啓発費として会場の周囲へ花作りを行っておりますが、こういった経費もはっております。関連事業費ですが、4,021,656円、これはドラゴンボート大会費、川サミット物産展の支出、川に親しむ運動の支出と川の原簿の制作費でございます。事務局費として、477,619円、これは事務費等の支出でございます。合計しまして27,825,800円ということになっております。簡単ですが報告に代えさせていただきます。

宮川村長 ありがとうございます。ただ今の報告第1号、事業報告とそれから、報告第2号、収支決算報告について報告がございました。報告ということでご了承を賜りたいと思っております。続きまして、議案の第1号、第9回全国川サミットin宮川の事業計画案並びに議案第2号の第9回全国川サミットin宮川の収支予算案については、相関連いたしますので一括議題とさせていただきます。事務局に説明をいたさせます。

企画調整課長 それでは、総会資料の4ページでございます。議案第1号、第9回全国川サミ

ットin宮川事業計画案につきまして説明させていただきます。1日目の本日でございますけど伊勢市からお越しの皆様方のみ宮川の下流域から上流の宮川村に向けまして流域をみていただきました。そして、この連絡協議会の総会の後、奥伊勢フォレストピアにおきまして歓迎会を開催させていただきます。2日目の明日につきましては、8時30分に宮川の上流視察ということで村内を見ていただきます。お昼には宮川小学校へ戻ってまいりまして昼食後、その体育館で午後1時から5時ぐらいまでシンポジウムを予定しております。その後、建設省、三重県それから流域市町村長の皆様と関係者の皆様を交えまして奥伊勢フォレストピアで交流会を予定しております。3日目につきましては、それぞれ流れ解散ということにさせていただきます。尚、参加自治体からの物産を送っていただいております。その展示販売をしております。3日間奥伊勢フォレストピアの中で行っておりますのでまた、よろしくお願いいたします。

続きまして、議案第2号につきましては、総会資料5ページにございますが、第9回全国川サミットin宮川収支予算案の説明をさせていただきます。収入につきましては、参加自治体からの負担金1,700,000円、今回17自治体分100,000円ずつでございます。それから建設省、中部地方建設局助成金といたしまして10,000,000円を予算化しております。これは、原物支給でございます。宮川流域協議会補助金といたしまして200,000円。これは、流域の14市町村で作っております、宮川流域ルネッサンス協議会からの助成でございます。それから、宮川村の補助金が8,000,000円。このうち三重県の補助金4,000,000円を含んでおります。その他5,000,000円上がっておりますが、河川環境整備財団の助成金、社団法人中部建設協会の助成金、そして三重県海岸協会の助成金の額が合計5,000,000円でございます。あわせて収入が24,900,000円となっております。支出につきましては、会議費は、1,134,000円、総会とか実行委員会の関係の会議費でございます。流域視察費につきましては、756,000円、貸し切りバス等の費用でございます。交流会費といたしまして3,874,000円、内訳は、歓迎会費、

交流会費でございます。記念事業費といたしまして8,373,000円、シンポジウム費、かわった写真コンテスト費、出版物およびビデオの制作費ならびに記念品費が合わせまして8,373,000円でございます。広告宣伝費といたしまして1,638,000円でございます。これは、広告物及びCM制作費でございます。関連事業費といたしまして7,693,000円を上げてありますが、これにつきましては、こども川サミット(川の学校)を8月に3日間開催させていただきました。この経費が7,242,000円でございます。内訳につきましては、流域視察費等ここに記載してございます。それと川サミットの物産展費が、451,000円あげてあります。事務局費といたしまして882,000円。企画及び事務費がそのトータル額が882,000円でございます。予備費が550,000円計上させていただいております。合わせて支出の合計が、24,900,000円となっております。以上でございます。

宮川村長 それでは、議案第一号の第9回全国川サミットin宮川の事業計画案並びに議案第2号の収支予算案につきましてご意見等ございましたらちょうだいいたしたいと思っております。

場内 ありません。

宮川村長 よろしいでございますか。特に意見もないようでございますので、議案第1号並びに議案第2号につきまして承認することに意義のない方につきましては、挙手をお願いしたいと思います。

場内 全員挙手。

宮川村長 ありがとうございます。全員異議なしということでございますので本案は、承認をされました。

つぎに議案の第3号の第9回全国川サミットin宮川の共同宣言文案について議題といたします。事務局に説明をいたさせます。

企画調整課長 それでは、資料6ページをご覧くださいと思います。まず、宣言文案でござ



いたしますが、これを朗読させていただきます。第9回全国川サミットin宮川共同宣言文案。

私たちは、台高山脈に源を発する三重県最大の河川、宮川の最上流域、宮川村に集い、「川に愛される人になりたい ちよっとすてきな川家族」をテーマに第9回全国川サミットin宮川を開催しました。

昔から川は、人々の暮らしと深い関わりを持ち、時には恵みをもたらす試練を与えてきましたが、いつの間にか忘れられてしまったのではないのでしょうか。近年、人々の川に対する価値観が変化し豊かできれいな昔の川を取り戻すことの重要性が問われています。昔の川を取り戻すということは、難しい問題ですが、私たち大人は、21世紀を担う子供達のために川家族の一員として自分たちの愛する川のために小さくてもいい、今出来ることから取り組むことを誓い合い次のことを宣言します。

1. 21世紀を担う子供達にもっと自分たちの川を知ってもらうため学校教育と一体化した取り組みを進めます。

(1)自治体独自の川の教科書を作製し積極的な活用を図ります。

恐れ入りますが、ここで自治体独自の川の教科書と限定しておりますが、教科書等と申し訳ございませんが、広い意味での文言を入れさせていただきますと思います。教科書等を作製し積極的な活用を図ります。

(2)インターネットを活用して全国自治体学校間の川を通じた交流を図ります。

2. 地域住民による河川環境クリーン運動等を展開し川を愛する心の情勢に努めます。

3. 川に関わるイベントを通じ川の歴史、文化の啓発に努め河川愛護のための取り組みを進めます。

平成12年10月14日第9回全国川サミットin宮川参加者一同代表宮川村長尾上武義。代読しました。

宮川村長 それでは、第9回全国川サミットin宮川の共同宣言文案につきまして、ご意見等ございましたらちょうだいいたしたいと思っております。

この宣言文案でよろしゅうございますか。

場内 よろしいです。

宮川村長 特にないようでございますのでお諮りさせていただきます。この宣言文案につきまして承認することに意義のない方の挙手をお願いしたいと思います。

場内 全員挙手。

宮川村長 ありがとうございます。全員異議なしでございますので本案は、承認をされました。

この文案につきましては、明日のシンポジウムにおきまして、皆様方全員がステージに上がっていただきまして、私の方から代表してこの宣言文を朗読をさせていただきますのでよろしくお願いをいたしたいと思っております。

それでは、最後に議案の第4号でございますが、今後の全国川サミットの開催予定についてを議題といたします。事務局から説明をいたさせます。

企画調整課長 資料の7ページをご覧くださいと思います。議案の中には、今後の開催予定地といたしまして来年度の兵庫県揖保川町さんのみとなっております。けれども、江戸川区さんも続いて開催をしていただけるような事を聞いておりますので、その点ご承知おきをいただきたいと思っております。

以上です。

宮川村長 平成13年度が兵庫県の揖保川町さん、それから平成14年度につきましては、東京都の江戸川区さんということで、江戸川区さんそれでよろしゅうございますか。

江戸川区 同意。

宮川村長 ありがとうございます。それでは、一つよろしくお願いをしたいと思います。

加茂川町 平成15年度開催の意志があります。

宮川村長 おもいきって平成15年度お手を上げていただいたと言うことで、ありがとうございます。平成15年度は、岡山県のハートオブ岡山を推進しております加茂川町さんということで決定をさせていただきたいと思っております。ありがとうございます。

その他に、ご希望いただける市町村さんございませんか。

十津川村さんの方はいかがなもんですやろ。

十津川村 検討の意。

宮川村長 ひとつご検討いただけますか。よろしくお願いをいたしたいと思っております。

それでは、14年度が東京都の江戸川区さん。15年度が岡山県の加茂川町さんということで順次決定をさせていただきました。誠にありがとうございました。どうぞよろしくお願いをいたしたいと思っております。

それでは、すべての議事が終了いたしました。ご協力をありがとうございました。

これを持ちまして総会を閉会をさせていただきますと思います。ありがとうございました。

司会 ありがとうございます。

他に何かご意見ございませんか。

宮川村長 この際ですのでどうぞ何なりとご意見等ございましたら。

司会 それでは、ご意見がないようでございますのでこれを持ちまして平成12年度全国川サミット連絡協議会の総会を閉会させていただきます。どうもありがとうございました。

シンポジウム [10月14日(土)13時～]

●スケジュール●

- 12:00 受付
13:00 全国川サミットin宮川シンポジウム開会式
- 開会宣言 宮川村助役 真伏秀樹
 - 会長挨拶 全国川サミット連絡協議会会長
宮川村長 尾上武義
 - 来賓祝辞 三重県副知事 上田紘士
 - 建設省 中部地方建設局河川部長
小林一朗
- 13:30 参加自治体のスライド紹介
13:50 こども川サミット(川の学校)の報告
14:00 休憩
14:15 群読、奥伊勢宮川清流太鼓ジュニアチーム、
シンセサイザーと共演
(宮川小児童全員の川への想いを発表)
- 14:45 こども川サミットの提言をテーマとした討論会
16:15 かわ〜った写真コンテスト表彰
16:25 こども川サミット宣言
16:35 川サミット宣言
16:45 川サミット旗の受渡式
16:50 閉会
- 閉会のあいさつ 宮川村収入役 浦中優

コーディネーター



三重大学助教授 木本 凱夫 先生

profile

- ☆1973東京大学農学系研究科終了
- ☆1973三重大学農学部助手に赴任
- ☆1980三重大学農学部(現生物資源学部)助教授
- ☆専門は田園計画学、水計画学、水資源開発と保全、農学博士、都市環境ゼミナール幹事長、土木学会正会員、農業土木学会正会員、三重ビオトープ研究会幹事
- ☆三重県総合計画審議会 専門委員
- ☆宮川流域ルネッサンス委員会 水部会長

第9回全国川サミットin宮川シンポジウム開会式

日時：平成12年10月14日(土)
場所：宮川小学校体育館

司会 大変お待たせいたしました。ただいまより第9回全国川サミットin宮川シンポジウム、本日のテーマは川に愛される人になりたい。サブテーマとしまして、「ちょっとすてきな川家族」の開催にあたりまして、宮川村助役の真伏秀樹が開会宣言を行います。

助役 皆さんこんにちは。ようこそ宮川村にお越し頂きまして、有難うございます。それでは、ただいまより第9回全国川サミットin宮川シンポジウムを開会いたします。

司会 宮川村助役の真伏秀樹が開会宣言を申し上げました。尚、申し遅れましたが本日の司会進行は私、高橋むつみがつとめさせていただきます。どうぞ宜しくお願いいたします。

それでは開会にあたりまして、主催者であります全国川サミット連絡協議会会長宮川村長の尾上武義が皆様にご挨拶を申し上げます。お願いいたします。



開会宣言 宮川村 真伏助役

宮川村長 皆さんこんにちは。全国川サミットin宮川のシンポジウムを開催しました所、全国から16の市区町村そして宮川流域はじめ県内各地から多くの皆様にお越しを頂きました。盛大に開催できます事をまずもって、お礼を申し上げたいと存じます。また大変お忙しい中を三重県から上田副知事さん、並びに建設省中部地方建設局から小林河川部長さん、そして西場、大野両県議会議員さんのご臨席を賜りまして心から感謝を申し上げます。本当に有難うございます。

今回のサミットは、21世紀にふさわしい川作りを目指す為に、今何をなすべきかと言うことで、時代を担う子供たちにもっと川を知ってもらおうという事からこの8月に、全国こども川サミット「川の学校」を開催いたしました。その節には、村内の皆様方にはホームステイや学校の先生役というような事で大変お世話になりました。改めて御礼を申し上げる次第でございます。

私共は人と自然の共生を川を介した教育を通じて、子供たちに体験、あるいは体感をさせていきたい、こう考えております。平成14年から総合的学習も始まります。その中にも是非位置づけていきたいと考えております。そしてそのフィールドは有り余るほどあるのではないかと考えております。このような素晴らしい自然環境を守り活用するために、今私共は環境条例の施行や公共下水道の整備、合併処理浄化槽の整備、そしてまた全村民の皆さんによる、8月の末に行います環境クリーン運動、また環境保全林の整備事業などなど、自然と共生できる施策を打ち出して実践する中で、着実に認識は深められていっていると思っております。このような時に、一級河川名を自治体名とする市区町村の皆様と連携し、21世紀に向けてよりよい川との共生の方向を探る事を目的として、開催するこのサミットは全国への情報発信と言う意味から、本村は、もとより、宮川流域にとりましても大変有意義であろうと思っております。昔の川を取り戻すという事は、大変な事でございますが、このシンポジウムを契機に、皆様と共に真剣に考え、取り組んでいきたいと考えているところでございます。終わりになりましたが、このサミットの開催にあたりまして、建設省、三重県、河川環境管理財団、中部建設協会、そしてまた三重県の河川海岸協会、宮川流域ルネッサンス協議会の多くの方々から多大なご支援を賜りまして厚く御礼を申し上げます。それでは、本シンポジウムが有益に盛大に開催されますことを御祈念申し上げまして、甚だ素辞ではあります。私のご挨拶とさせていただきます。どうも有難うございました。

司会 宮川村村長の尾上武義よりご挨拶を申し上げます。

続きまして、大変お忙しい中、本日宮川村の川サミットの為にお越し頂きました来賓の皆様からご挨拶を賜りたいと存じます。

はじめに三重県副知事、上田紘士様よりご挨拶を頂戴したいと思います。上田様宜しくお願いたします。



宮川村村長 尾上武義

上田副知事 皆さんこんにちは。三重県の上田でございます。まず本日は第9回の全国川サミットin宮川が、こうして盛大に開催されます事を、心からお慶び申し上げます。本日は大変良い天気にも恵まれておまして、本当はこの天井をとっばらってしまっ、明るいとこでやるともっといんじやないかと思ひます。こんな素晴らしい環境の元で、今日のサミットが開催される事が出来ました。本当にありがたいことだと思ひます。伺いますと、もう既に8月に今回は、子供のサミットをしてこられてるという事でございます。私残念ながら参加をすることができませんでした。今日報告があるようでございますが、本当に川と、われわれ人間とのつながりを、子供という一番大切な時期に、人間といいますか、私たちとの接点を出発点とすると言うことで素晴らしい試みだったと思ひます。実は私は自治省という官庁を拠点にしてあちこち転勤をしておる種類の人間であります。私の子供は三人おりますが、育った頃と言いますが、東北地方の岩手県盛岡市の北上川という川の支流の中津川という川の側で、5年ほど暮らしておりました。その川から歩いて2分くらいの所に、住んでおりましたけれども、1年中その川辺を散歩したり、夏は水浴びをしておりました。また北国でありますから、冬になりま

すと、土手から雪の上をそりで滑るというようなそんな楽しみ方をさせてもらったんであります。このように、幸いな事に我が家の子供たちは、ある程度川に親しむことが出来ました。今、実は東京に家族は住んでおりますけれども、なかなか川に触れる機会が無くて、たまにといいますか、しゃれですけども、多摩川という所に行って、水浴びをするというような生活をしております。この宮川流域は、大変素晴らしい川が皆さんのご努力によって今こうやって維持をされております。もちろん治水の仕事をするために、ダムを作るとかいろいろな人間の手を加えられておりますけれども、そうした中でより素晴らしい環境を残し、後生に伝えていきたいという地元の皆さんの思いがこういう状態を保ってきているものと思ひます。ご説明しておるかと思ひますけれども、流域14市町村で、宮川流域ルネッサンス協議会というものを作っておりまして、この宮川にちなんだいろんな事業を沢山地道に集めて、宮川をメジャーなものにしていきたいという努力をしております。そうした中で、全国の16の市区町村の川サミットの各会員の皆様方と、また、連携を加えながら、よりその宮川、あるいはそれぞれの皆様方の川の流域の皆様方が、日本のある意味では原点とも言ふべき人間の営みというものを体言していったら本当に素晴らしい事だと思ひます。私共三重県として、この宮川を日本一にしていきたいと思ひますし、16の市区町村の皆さん、それぞれ、地元の川を日本一にするように、大いにお互いに競ってまいりたいと思ひます。本日はまず、大会が盛会であることをお慶びすると共に、この後のシンポジウム、いろいろな企画があるようでございますから、これが大いに有意



三重県 上田副知事

義なものになりますように、心から祈念を致しまして、甚だ素意でございますけれども、三重県としてのお祝いの言葉とさせていただきます。本日はどうもおめでとうございます。

司会 上田様、有難うございました。続きまして建設省、中部地方建設局河川部長の小林一朗さまより、ご挨拶を頂戴致したいと思います。小林様、お願いいたします。

中部建設局河川部長 ご紹介を頂きました、建設省の中部地方建設局の小林でございます。今日はこの全国川サミットが、宮川村で開かれること、心からお慶びを申し上げます。この宮川も一級河川というふうに申しますが、私共建設省の河川、109水系の一級水系がございます。それで、この宮川はその中でも大変美しい川でございます。平成3年には全国で一番水質の美しい川という事でありました。残念ながら昨年は一番は取れなかったんですけども、一番美しい所とほんのわずかの差、まあ一番は同着1位というのがありました、それに次いで殆どかわらないんですけども、第6位という事でした。いずれに致しましても、大変に全国的にも美しい川であるという事には、かわりないわけでございます。こういった美しい水質、あるいは環境等を守られておられますこの宮川の流域の皆様方に心から敬意を表する次第でございます。このサミットのテーマは、「川に愛される人になりたい」大変いいテーマだと思ひます。どういうふうにしたら川に愛されるのかなと、なかなか難しいと思ひますが、まずやっぱり川を愛して頂くという事が最初ではないかと思ひます。そして川をよく知って頂いて、よく理解して頂くという事からはじめて頂くのがいいのではないかと思ひます。川には、いろんな生物、美しい豊かな自然があります。そしてまた川は我々の生活に豊かな恵みを与えておられます。そういった川を良く知っていただいて、大切にさせていただくという事が、川に愛される近道かなと思ひます。ただやはり一つ忘れてはいけないのが、川というものは自然現象でありますから、時には、荒れ狂いまして、非常に大きなエネルギーで、我々人間の命をも奪いかねない



中部地方建設局河川部長 小林一朗

い、自然の大きな驚異を持ったものであるという事を忘れてはならないと思ひます。この9月11日東海豪雨災害がございました。三重県も愛知県も岐阜県も長野県もそれぞれ大きな水害をうけた事は、記憶に新しいと思ひます。最近では気象の変動が激しくなっておりまして、従来に比べて強い雨、激しい雨が降る頻度が増えてまいりました。これは地球の温暖化とか、いろんな現象があり、こういった事でこういう気象が激しくなってきたのか、原因はまだよくわからないんですが、とにかく統計的に見ましても、日本でも世界的にも激しい雨が降るようになってまいりました。このたびの東海、名古屋を中心としましたこういった大きな被害、三重県でも四日市が大きな浸水被害を受けておられますが、そういったことは、これからも全国各地いろんなところで身近に起こりかねない。われわれもまた水防や治水への備えを改めて、強化そしていつも心にしなければならぬと思ひているところであります。さて、中部地方でございますので、ちょっと一言だけお話をさせていただきますと、中部地方で有名な川で長良川というのがございまして、ある人にいわれますとこの長良川というのは、公共事業の悪玉というふうにおっしゃられる方もおられます。今日は全国からもいらっしやっておりますので、一言だけ、お話をさせていただきます。長良川と言いますのは、大変水害に弱い川であります。川底に大きなマウンドというのがありまして、こぶですね。それがあのおかげで、川の水がスムーズに流れないという事でありました。このマウンドを取るといいう工事を致しました。そうすることによって長良川が安全に洪水が流れるという事になりました。ところがこのマウンドを



取りますと、伊勢湾から潮があがって参りました。今まで取っていた水が取れなくなったり、あるいは農業用の農地あるいは畑が潮で汚染されました。こういった事を防ぐために河口堰というのを作りました。潮が逆流しないように、そして洪水の時には、河口堰を開けて安全に水を流すというこういった施設であります。今回の9月の水害でも大変大きな効果を発揮いたしました。従来に比べて1m以上の水位が下がりました。それからこの夏は大きな渇水がございましたが、この三重県の津とか久居とか中勢地域と言いますが、そういった所が長良川からの水によって、断水が免れました。あるいは愛知県の知多半島が断水をまぬがれるなどの効果を発揮致しました。ただやはり、いろいろとこういった工作物を作るのに、環境への影響が全くないとは言えません。例えば鮎とかサツキマスの遡上がどうかといった事がございます。こういった事につきましては、いろんな人の意見を聞きながら、環境になるべく影響のない、こういった万全の措置も取りながら、治水と利水と環境、そういった川づくりを目指していきたいと思っております。いずれに致しましても、私たちの建設省、河川管理者、あるいは三重県の河川課もそうなんですけれども、河川管理者だけで川を考えていく時代ではありません。地域の皆様のご意見とか、あるいはご協力によって川を守っていくと言うことが一番大切だと思います。この川サミットを通しまして、皆様のご協力あるいは河川への理解を深めて頂きまして、皆様と共によりよい川づくりが出来る事を期待しております。この川サミットが盛会に開催され、皆様が川への思いを深めて頂く事を期待致しまして、私のご挨拶と致します。本日はどうもおめでとうございました。

司会 小林様、有難うございました。

ご来賓の皆様、ご祝辞を頂戴致しまして、有難うございました。引き続きまして、ご臨席を頂いている皆様をご紹介させて頂きたいと思っております。本日は各界から大勢の皆様にご臨席を賜っております。本来ですと皆様おひとりおひとりから、ご挨拶を賜るのが本意なのですがございまして、何分時間の都合上、割愛させて頂きたいと思っております。ご了承下さい。

それでは、お名前のみご紹介させていただきます。三重県議会議員西場信行様。同じく、三重県議会議員大野秀郎様でございます。続きまして、宮川流域の町長様を紹介させていただきます。度会町長大野幸茂様。紀勢町長谷口友見様でございます。明和町長木戸口真澄様でございます。そして、二見町助役の松本隆文様でございます。他にもたくさんの皆様にご臨席を賜っておりますがお時間の都合上割愛させていただきます。

それでは、ここで祝電を披露させていただきます。第9回全国川サミットin宮川の開催おめでとうでございます。本サミットは、一級河川名を市区町村名にする自治体が一同に介し川について語るという大変ユニークな会であり、私も建設省河川局長時代にその発足に一役関わらせてもらいました。本会のさらなるご発展と皆様様が今後ますますご健勝でご活躍されますことを心よりお祈り申し上げます。参議院議員の岩井國臣様よりちょうだいいたしました。ありがとうございます。

それでは、これをもちまして開会式を終了させていただきます。

第9回全国川サミットin宮川シンポジウム

日時：平成12年10月14日(土)
場所：宮川小学校体育館

討論会名簿

コーディネーター 三重大学助教授 木本 凱 夫

宮川 村 長	尾上 武 義	江戸川区 土木部計画課長	高井 聖	加茂川町長	片山 舜 平
肱川 町 長	大野 和	富士川町企画課長	小林 延 江	北川 町 長	盛武 義 美
揖保川町長	八木 捷 之	大井川町助役	池田 鐸 朗	白川 町 助 役	細江 照 男
鵜川 町 長	山口 憲 造	寝屋川市助役	田川 良 廣	宮川小学校長	西岡 恵 三
雄物川町長	佐々木孝志	加古川市助役	瀬川 栄 治	宮川中学校教諭	左近 淑 人
滑川 町 長	上野 昇	十津川村収入役	中上 征 雄		

司会 お待たせいたしました。それでは、全国こども川サミット(川の学校)におけます、子供たちの提言等をもとに全国自治体の代表の皆様にご意見や事例等を交えながらお話を頂きたいと思っております。それでは、全国自治体の代表の皆様こちらのステージの方へお上がりください。

本日は、全国から自治体の代表の皆様にお越しいただいております。これからその皆様にご意見や事例等を交えながら討論会をして頂きたいと思っております。

それでは本日のコーディネーターをご紹介致します。コーディネーターは宮川流域ルネッサンス委員会の水部会会長でもあり、宮川流域の上流から下流まで大変良くご存知でいらっしゃいます三重大学助教授の木本凱夫先生でございます。

また、コメンテーターとしてこども川サミットでお世話頂きました、宮川小学校校長、西岡恵三様、川の学校で理科のご担当を頂きました宮川中学校教諭の左近淑人様です。

それでは、木本先生宜しく願いいたします。

コーディネーター 着席のまま、御無礼させて頂きます。先ほどの群読、そして歌、太鼓本当に健康そのものの子供たちでした。私たちも負けずに、楽しくごっくばらんにごくごく本音の話で持っていきたいと思っておりますので、宜しくご協力をお願いいたします。そして与えられた時間がわずか90分でございますので、皆さんからなるだけ多くのお話を頂戴したい。まあ、リレ

ーと同じでバトンタッチのルールで行きたいと思っておりますけれども、だいたいおひとりいろんな言いたい事があると思うんですが、自分が一番言いたい事、二分をめぐりに、ちょっときついですけれども、と言いますのは、会場からもご意見を頂戴したいと思っておりますので、ともかくもちろん少々オーバーしても結構でございますので、そこそここのルール、ご協力の程をお願い申し上げます。

もう一つ、二分でどうしようかとお話の時に、今日の一番のメインテーマ、柱であります、ちょっとすてきな川家族、いかに子供たちに川を知ってもらうか、ということにだいたい柱を持って行って頂ければと思います。

そうしますと、もう早速余分なおしゃべりをしないで、こども川サミット川の学校の経過報告もございました、そして先ほどの群読、宮川村の子供たちからの訴え、そのような事をふまえて、感想を前回この川サミットを主催されました肱川町からまず、お伺いしたいのですが、宜しく願いいたします。

肱川町 肱川町でございます。前回肱川で第8回川サミットをやりまして、宮川村からも沢山の方がおいで頂きました。大変ありがたくこの機会にお礼を申し上げておきたいと思っております。先ほど子供さんたちの群読、いろんな行事がございましたが、私が一番感じました事は大変元気だなあという事でありまして。私のところは風おこし運動という事をやっております。自然エネルギーの町というのが一つの目標であります

が、その中で風にも着目をして、風おこし運動をやっております。人が動けば風がおこると、まず自分の心の中に風をおこし、行動に移していこうというのが風おこし運動でございます。

それで、学校の生徒諸君の卒業式とかで、校歌を歌うときでも、どの位の声が出るかな？という事をいつも気にして聞いておるわけですが、今日大変大きな声でいろんな事をやられるので、驚きました。あれだけの元気があれば、風はおこるなあと思いますし、昔々という言葉で最初、宮川は昔々という事で始まりましたので、昔々だけで終わってはいけんなあと思っておりますと、今日今からの川に愛される人になりたいと、いうふうな希望が出て参りまして、大変嬉しく思っております。今、人間は川から見捨てられるのではないかと、というのが私の日頃から思っておる感想でございます。そういう事で、大変感心をして拝聴しておりました。

コーディネーター ありがとうございます。つづいて次回の主催であります、揖保川町の方から、どうでしょう？

揖保川町 第10回を受けさせていただきます揖保川町であります。私共も夏のこども川サミットに丁度三人参加させて頂きまして、非常に私共の方では経験できない事をさせて頂きまして、非常に喜んでおりますし、本当にお世話になりました事を改めてここで、お礼を申し上げます。

今日の群読の中でもいろいろ出てましたように、歴史を通して学ぶと言いますか、そういう事も非常に勉強されているなあという事も出ておりました。また川の中で、川を通して、自分たちが遊んで、いろいろと思い出が出来たという事、これも表現されておりましたし、最後にこれを合併浄化槽とかそういう問題にまでして、環境問題にまでまとめ上げていったという、非常にこう、素晴らしい発表ではなかったかなと、このように思います。私自身は、本当に川の中で水の怖さとか、そういうことを知って頂かなきゃいけないし、自然を通して、川を通して、学んでいく中で、自分の地域を愛し、誇れる、



そう言った子供に育って頂ければなあと、そういう事を常々思っております関係から言いますと、素晴らしい発表だったとこのように思います。

コーディネーター ありがとうございます。元気いっぱいな子供たち、そして本当に教育熱心な宮川小学校。その宮川小学校を代表して西岡校長先生、コメントをお願い申し上げます。

宮川小学校長 はい、宮川小学校ですけれども、元気のあるのは、常から元気です。この学校、統合致しましてまだ二年目という宮川で唯一の小学校となりました。川サミットという事がありまして、やはり子供たちが川に親しもうという事よりも、自然をどう子供たちが取り入れるかという事なんです。自然を取り入れるために、新しいこの宮川の小学校の周辺の谷、となりにも谷があります。前にも蛇川という谷があります。そこへ、低学年をしょっちゅう連れて行くと、自分たちの周りの環境を知ろうという事、今年は川へ出かけようということで、随分して参りました。ところが本流の宮川へ行くには、皆さんもご存知の様に、学校の下は、随分谷が深く子供たちはいけません。これをどういう風に行こうかという事で、三年生が発表したのが、「天ヶ瀬の川へ行ったよ」というのが、天ヶ瀬から昔渡し船が出とったという、降りる所があって、そこから降りる所を子供たちが見つけて来ました。そしてそこで降りて、子供たちが川へ降りて川遊びをしたいと、下にきれいな川が流れとるのに、そこで遊べないというのがあったわけで、思い切って行きましようということで。流された子がいました。子供が川を知らないということが一つありました。だから出

来るだけ川で、遊びを通して学んでいただくという事、学ばそうという事で、まあ今年から始めております。低学年は近くの河原、高学年になると、バスでもう少し遠い所へ行こうかとか、いう事でやらさせて頂きました。遊びは子供が見つかるわけで、こちら側は何も言う事がなくて、だんだんだんだん行く回数が増えれば増えるほど、子供たちが自分たちで川の遊びを教える、習ってくるというか、本当に川は、私もコメントに書かさせて頂きましたように、教育の資源があるなあというふうに考えております。以上です。

コーディネーター 有難うございました。本当に宮川小学校の取り組み、簡潔にご報告頂きまして、有難うございます。さて、それではいよいよ討論に入りますのですけれども、最初に各参加の市町村のスライドがありまして、非常にいろんな取り組みをなされております。まず活動状況や共同事業というものについて、ご紹介、もしくは問題点、今後どうすれば持続していくんだってな事を絞ってお話頂きたいんですけども、事業、活動にはソフトとハード、最近流行の言葉ですけれども、ございます。ソフト部門、鶴川町がししゃもを語る会、それから都市部から職人ボランティアを募集されておられるという事で、鶴川町の方から、事業面、ソフトの事業面の事について、ご紹介と問題点とか将来どうしたいってなことがあれば、紹介をお願いしたいと思います。

宜しくお願いいたします。

鶴川町 北海道、鶴川町の町長をしております、山口と申します。私このたび初めて川サミットに参加をさせて頂きました。そこで、先ほどもちょっと前段で子供たちの問いかけを聞いていたわけなんですけれども、まさしく健やかに素直に育って私共の町からも三名参加をさせて頂きました。まあそういう中で、行政に携わる人間としては、まさしく町づくりは人づくりという観点からいきますと、私どもの町に子供たちも参加した事が大変これから有意義な形の中で町づくりに貢献できる子供たちだなどという風に考えております。そこで私共の鶴川でございま

すが、実は私共の一級河川は約二本実は隣町にあります。猿川というところであります。ここも一級河川でございます。私共の中で、ししゃもという柳の葉っぱの魚と書くんですが、これはアイヌ語でございまして、非常に淡泊なお魚でございまして、これから秋・冬、十一月にかけてこれから遡上をして、産卵をしていくという今時期でございます。そういうわけでこの二本の河川の中で、実は夫婦川という風に私共の河川は言われているのですが、猿川という所は男川で私共の川は、母なる川鶴川というふうに実は呼んでいるわけがあります。

そう言う中で、秋の風物詩としてシシャモが全国的に展開を知られているわけでございますけれども、昨今、非常に荒廃地が森林の伐採などが目立ってきております。資源の枯渇が非常に問題に課題になっているわけで、ございます。つまり産卵床が荒らされているという事が非常に大きな問題点になって、これからの大きな課題であるわけでございます。そういう訳で、シシャモを語る会という町民の有志の方々が、10名からはじまり20名から始まり、全国の方も実は会員になっていらっしゃる方も見えます。



遠くは大阪の方からも、来て、そのシシャモの資源の保護の為にどうすればいいかというシンポジウムとか討論会を開いて非常にその課題に取り組んでいるわけでございます。毎年シシャモアレトピアというイベントを通じながら、これは私共の町は実は空っ風とかあ天下というくらい、実は風が非常に冷たさをその荒れる時にししゃもが非常にとれるという実は下絵があります。そう言う中で実はシシャモアレトピアというイベントを通じながら、この母なる川をどう保全していくのかという事で現在取り組

んでいるところでございます。漁業も私の所太平洋側でございますので、先ほど言った荒廃地をどう、保全をしていくのか、遅ればせながら現在漁業婦人部の方、町内の婦人部の方々、町民の方を含めて、上流の環境保全に毎年植林事業に努めて、今後21世紀は自然と環境の時代と言われるように、私共これからの後世代にどう継承し保全をしていくのかというのが大きな課題で今取り組んでいるところでございます。

コーディネーター 有難うございました。町長さん、一つ教えていただきたいのですが、シシャモの産卵場所というのはどのあたりになるのでしょうか？

鶴川町 シシャモの産卵場所は太平洋側河口からですね、約1キロくらいのところがですね、産卵場所として根づいているわけです。これは鮭も同じ時期に、実はもうちょっと早いんですが、鮭は今の時期なんです、これからがシシャモのいわば、シシャモを捕獲するのは、河口の付近で餌を沢山食べて、体が締まった段階で捕獲をして、残りはその遡上をしていくんですね。それで1キロくらい遡上をして、そのなかで産卵をしていくとそしてまた海に帰って、また戻ってくるとこういうのが一つの流れでございます。

コーディネーター そうすると河口がかなり荒らされる……。

鶴川町 そういう事でございます。

コーディネーター 有難うございました。さて、その次は雄物川町、ここでは国際カヌークルージング場の認定だとか、川下りビックランっていうような、どちらかというとハードの事業がかなり得意な感じは受けますけれども、町長さん宜しくご紹介の程、お願い申し上げます。

雄物川町 秋田県雄物川町の佐々木と申します。私の方の町は、丁度真ん中を秋田県最大の一級河川雄物川が貫流しておりまして、川に関わりが深いという事で、雄物川の名前を頂いておるわけでありまして、ところが、時々気になる事が

あるんです。それはあの、町名を間違っって言われる事があるんですよ。どういう風に言われるかと言いますと、「おぶつがわ」という風に間違われる方がおるようでありまして、そういう事を聞くたびにショックを受けるわけでありまして、そういう事で私の名刺にはフリガナをふってあります。間違わないように、「おものがわまち」という風に書いておるわけでありまして、ただ先ほどバスの中で川の水質検査調査の報告がありましたが、その中で20という事で、川の水が汚れておるというような事を聞きまして、またショックを受けましたが、それがおまえの方は「おぶつがわ」と呼んだ方がいいんじゃないかという風に言われぬように、川をきれいにしなければという事を、そう言う気持ちも強く持っている訳であります。そういうことでまずクリーンアップ作戦ですけども、これを力を入れてやっておりますが、まあ上流の5市町村、約50団体、総勢3500人が一斉に川の清掃美化活動、これを子供たちも含めてやっております。それから先ほどお話がありましたように、カヌークルージングのアメリカの方から我が国最初の認定コースとして、認定をいただいた訳でございます。だいたい湯沢市という南の方と、北の方にある大曲約60キロ、雄物川は120キロくらいあるんですが、その半分くらいの距離が、上流の方が認定されまして、その中間部、ちょうど真ん中に我が雄物川町があるわけでありまして、従いまして、このコース、カヌーをする場合には中間地点と致しまして、一旦私の町の方の河川公園、ここで上陸しまして、いろんなイベントをやって、また再び大曲へ向けて、出発すると、こういうふうなイベントがあるわけでありまして、河川公園は面積が広大でありまして、20ヘクタールという広い公園が出来ております。これは多目的・多自然型の公園でありまして、例えばせせらぎ水路とか、芝生広場とか、冒険の森とか、集会園路とかいろいろエリアを設けておましていろんなイベント、子供たちの夏の集いなどでキャンプ生活をするという風な事とか、あるいは大人の方でも水防訓練など、もう横手平川全部という1000名近く集まる大イベントも広大ですから、出来るわけでありまして、特に、カヌーを子供た

ちに親しませたいとこういうふうにご考えております。私も先日初めて乗ったわけでありまして、川の汚れという物が、すぐ水面と至近距離にありますから、よく解るわけでありまして、思ったほど汚れておるといふ事でびっくりしましたけれども、ごみも沢山まざっておりましたし、それから河岸のゴミが散らばっているというそういう状況も、川の中に入って見て、初めてよくわかるんです。そういうことで、川をきれいにするためには、カヌーをやることも、大変有効であると、こういう風に考えておりますので、子供たちには大いにやらせたいと思っております。現在の所、会員だけ20人くらいこれは、大人だけの会員だけでやっておりますが、子供たちには大いに、進めてやらしたいとこういう風に考えております。以上です。

コーディネーター ありがとうございます。カヌーに子供たちを乗せて、とにかく川を見せるという事は非常に有効なんだというお話、まあ最後の方だけでございましたけれども、今クリーンアップ作戦もとられているということなんですが、今日は東京の江戸川区の方から、あの有名な花火大会の所なんですけれども、江戸川区の方から花火大会にえらく限定しますけれども、私たちが思いますと、その後のゴミの掃除だとか川の管理が大変だと思うんですが、そのあたりのご苦心談、お聞かせ願えませんでしょうか？

江戸川区 江戸川区の高井でございますけれども、まあ花火大会もはじめてかなりになります、大体ですね、河川敷に集まる方が、どのくらいですかね、何十万という方がお集まりになって、まあ全体では120万くらいの方が見物さ



れるような形になっておるんですけども、まあ持って帰る方がかなり増えてきたという事と、それからですね、ずっと前からボランティアの団体さんが次の日に全部ゴミ拾いをするぞという宣言を致しまして、それを毎年繰り返してきております。そう言ったことで、逆にそう言ったピーアールが進んだ事によって、皆さんがゴミをなるべく持ち帰るようにしようというような動きになってきているのかなと、まあそんな風にも感じてきておる所です。

コーディネーター ボランティアは、都全域でしょうか、江戸川区が多いとか、ボランティアの方は……。

江戸川区 えーとですね、ガイヤという団体の方なんですけれども、いわゆる自然保護の団体というか、そういうリサイクルを進めている団体が、自主的にやろうと、言うようなことで、宣言をしてやられているというふう聞いておりますけれども、そう言った動きが逆に広がってきているという事だと思っております。

コーディネーター 今日のメインテーマであります、「子供に川を知ってもらおう」それを通じて自然を知ってもらおうと共にボランティアというものにも私たち、注目して行かなければならないという事になろうかと思っております。有難うございました。大都会、大都会に変わってとっては失礼なんですけれども、ほたるの町北川町も花火大会をされてみえるはずですけども、そちらの方の川の管理とか、あとゴミの問題というのはどのような状態になっておりますでしょうか？

北川町 あの北川町でございます。花火大会を年に一回ですね、お盆の16日にふるさと祭りという事で花火大会とか盆踊り大会をやりますが、私とこの場合は、何と言いましても蛍の里北川町と蛍の里を看板でですね、それで川が英語のアルファベットのYという形で中流の二股に分かれておる訳なんです。で、左の方が本流で右が小川という支流なんです、その小川がものすごくきれいなんです。で、ここが一番蛍が多くてですね、蛍祭りも6月はじめにやってお

りますが、左の方の上流にダムがある関係で、これが36年ごろ作ったダムで淡水式ですね、いわゆるドレンが無いっていうダムなんです。この中間に浮いた状態の浮遊物の混じった汚れた水で発電するから、左の本流の方がやや汚れておると、まああんまり言っちゃ悪いんですけども、私たちはこの人様にあげる鮎は蛍のおる右のきれいな川の鮎なら自信をもって差し上げられるという風に私は思っておるわけです。それですね、一言言わせてもらいますと、清流はやはりこの自慢の町であります、子供さんとのふれあいは、毎年水難防止対策協議会で、毎年学校の先生と一緒に関係者が集まって協議をしますと、自然の川で、夏休みの時に水泳場を設けると、そうすると責任が伴いますから、どなたも俺が番をしてやるという方がみえないわけで、一方学校側から言わしますと学校にはプールがあるからと言うので、学校のプールと自然の清流との使い分けが自然にわかれとりまして、自然の清流には親が責任を持ってついでいくと、学校にはついていけないであろうと思えます。

しかし、そう言っても蛍の里づくりでありますから、上流の学校ではですね、先生が特に蛍の飼育に力を入れてくださって、蛍の生息を調査をしたり、自分たちで自ら蛍を生育したりしてですね、子供の教育に非常にやっていただいた先生もおられました、かわられると後続けられるという事が出来ない状況であります。まあ、子供さんを川に連れて行くという事もどうするかと言うことも教育上大きなテーマではなからうかと言う事を、今日ここにきてつくづく感じました。以上です。

コーディネーター ありがとうございます。町長さんがおっしゃった問題、三重県でも10年15年前にたような問題があって、大変訴訟沙汰になったということで、まあこれ恐らく後ほど触れていただけるかとも思いますけれども、確かに自然の所へ学校が子供を連れて行くという事は、非常に大きな問題を抱えていると思えます。ありがとうございます。そうしますと、まあ上流からの汚れ、先ほどからのカヌーのお話、上中下流のいったてんとか、そういうことなん

ですが、一本の川は上流・中流・下流と流れますので、その場合、白川町の方が上・中・下流まあの範囲かはっきりわからんのですけれども、要は流域連合会とか協議会をお作りって事ですが、白川町の方から、その主旨とまあ運営上の問題点な事をご紹介いただければと思いますが、宜しく願いいたします。

白川町 はい、白川町の細江でございます。白川町、実は白川がメインでございますけれども、この白川以外にも二つ色のついた川があるわけでございます。それは、黒川と赤川でございます。それはもともと、町村合併を致しましたので、そうなった訳でございますけれども、元々はそれぞれの村があったのが、合併いたしましたので、一つの町の中に川の色をついた川の名前が三つあるという事になったわけでございますけれども、その三つの川とそれ以外にまた大小二つございまして、全部で五つの川があるわけでございます。今日のこのサミットに参加させて頂きまして思った事は、うちは五本も河川があるから、もう少し川に対して、認識を深めないかん、そしてこの資源をいかさなあかんかな、もう少しね、せつかくある資源だから生かしていかなあかんかなと、そんなことを思ったわけでございます。ちょっと前置きになりましたけれども、本題の方の流域連合でございますけれども、白川町が一番下流域になるわけでございます。白川の流域の三つの町と村ということでございまして、それで目的と致しましては、一つの町ではやる事がおのずと限界があると、そういうことから三つの町と村が力を合わせれば、県・あるいは国あたりにもいろんな声が届きやすくなるのではないかと、まあそんなことを考えたわけでございます。もちろん川だけでは無しに、いろんな形の交流も深めていこうと言うことで、昨年でございますけれども発足したわけでございます。ご当地の宮川流域は14市町村ですから、とても比較にはなりませんけれども、小規模の流域連合という事でございますけれども、一番奥になります所については三つのテーマを設けて、一番上流域になります所には、山というテーマがございます。この山というテーマに沿って、山をやはり守ってい

なきやなど、そのためには間伐等をしっかり管理していただかないかと、ということで、山というのをテーマにしております。それから途中にあります、もう一つの村でございますけれども、ここは、途中でありますから、川を汚さないよという事として、高規格の合併処理浄化槽を設置するという事を命題にしまして、取り組んでおるところでございます。私の所が一番下流でございますけれども、下流域につきましては、真ん中に入ります所のテーマは川でございます。その川の水を汚さないという事でございます。で、私共は、一番下流域でございます。人がテーマでございます。人と川ってというのは、なかなか繋がりが解りにくいわけでございますけれども、交流という事に今置き換えておるわけでございますけれども、やはり都会との交流、そういう事によって、田舎の、田舎と言いますか、川の現状というもの、あるいは山の現状というものを都会の皆さんに知って頂いて、もちろん住んでおる者は、当然なんでございますけれども、大人はもちろん子供さんにも、交流の中で川というものをよく知って頂いて、そしてその川というものが自分たちの生活にもっとも身近なものであるという事を、やはり認識していただきたいなあともあそういうところで交流という事にしておるわけでございますけれども、私どもの願いとしては、今、豊田市さんが愛知県でございますけれども水源の基金を設けておられますし、それから神奈川県と福岡県がこれは県でそういった事業の基金制度なんかを設けておられると思っておりますけれども、もう少し都会の皆さんにそう言ったことについてもご理解を頂きながら、出来れば水源税というようなものに結びついていかないだろうか、まあそんなことを思っておるわけでございますけれども、なかなかそんな簡単にはいかないと思っております、いずれにしましても、私どもの町には五本の河川がございますので、町内の皆さんにはもちろん町外の皆さんにも、川というものを通じてよくご理解頂き、これからこの資源をもっとも生かして行きたいと、そんなことを思っております。ちょっと長くなりましたけれども以上で終わります。

コーディネーター 有難うございました。余分なことですけれども、私ふと思ったんですが、白川町の旗をそれこそ赤と白の三本みたいにつくられたら面白いかなと、あつごめんなさい、冗談ですよ。ありがとうございます。そのような、いろんなイベント交流事業活動がございましてけれども、その受け皿、場所ってのが大事じゃないかと思えます。例えばこの宮川村の使われてもらっております、このホール、それからおいでになった方、お泊まりになったフォレストピアなんですけれども、まあその他いろんな施設受け皿があると思うんですが、まずこの大井川町、何かあのリパティでしたっけ？ マラソンコース、非常に大きな物をつくられたと伺っておるんですが、その他各種スポーツ支援施設の整備計画・実施、選りすぐられておると伺っておりますが、そのあたり資金の出所とか運営上の苦勞話ってものをご紹介いただけないでしょうか？

宜しく願いいたします。

大井川町 大井川町でございます。ただ今、先生からのご質問でございますが、ご当地の宮川村さんです、私共静岡県大井川町ですが全く好対照でして、昨日来からいろいろ見せていただきましたが本当に源流の地であり、あるいは、文字通りの清流の地でありですね、そしてきっと水の神が住み、あるいは、森の神が住んでいられるであろうと、同時に山紫水明という言葉が本当にこの村の言葉に適しているとさよう心あられたわけですが、うちの町は、ですね大井川の最下流部にございまして、まさに末端の地で終末の地であります。従いまして、上流にはですね、製紙会社の製紙ガスが流れ決して清流とは、言い難い背景にございます。そういう背景の中で、子供たちにあるいは、住民の皆さんに川に親しんでいただくにはどうするかと、ご当地のように直接水にたわむれるということは、なかなか大井川という川は、先ほど申し上げましたように上流の関係からその水質が汚れているとむしろ水質汚濁防止法等の行政にですね額に汗するとういう状況にもございます。同時に川幅もですね約幅員が1キロございます。急流でもございます。左様な背景の中で

直ちに水と戯れるということは、なかなか出来ないとされれば、どうするかということになりますと、大井川という川をまず親しむためには、河川敷あるいは、堤防敷の敷地を利用させていただいてその中で、水辺空間となじむといえますか、そして昔を蘇らせるとそういった観点から実は物心両面に建設省さんからの心遣いといえますかご尽力をいただきましてマラソンコースをようやく、おそらく明年ぐらいには、完成されるであろうと、今日ただ今の状況では17,18キロが完成されてございます。20数キロ、往復で42.195キロのマラソンコースを完成させていこうと、合わせまして陸上競技場もですね1500席の観覧席をもうけてやっていこうとその他、たまたまうちは、防衛庁の航空自衛隊もでございます。こういう観点から、防衛庁さんからの民政安定事業の補助金等を仰ぎながらこの川辺空間をですねより有効的に使わせていただこうとこういう中で若干財政上の問題もございますが鋭意一步一步前へ進めているところでございます。おそらく本年の11月には、マラソン大会も出来るのではないかと女子のオリンピックにでられた市橋さんですか、あの方々をお招きさせていただいて、盛会時にやっていきたいとこういう状況にございます。簡単ですがこんなものでよろしいでしょうか。

コーディネーター ありがとうございます。同じような内容揖保川町さんは、いかがでございましょう。なにか、初の水上市場ステージなんていうものをお作りになったそうですが。

揖保川町 揖保川町は、特に町名を一級河川にもとめているわけなのですが、10年以上前ですと水質が、全国ワースト3からワースト5位に入っておりましてそっちの方で有名な部分もございました。また、水が出ますと中州にひじょうに柳が生えておりましてそれにビニールがひっかかって、川で七夕をしておるのかとそういうようなお叱りをうけておった訳なんです、そうした中でやはり町名にもとめているのだから、どのように整備するのが一番いいのかなあと思っておったのですが、たまたま第1回の川サミットが行われてちょうどいい機会になった

と私自身は、思っておるのですがそうした中で下水道事業を各流域で進めてですね、そして建設省さんも非常にご協力いただいております、清流を戻そうという、そういうことで河川敷も良くしていただいて現在では、近畿地建17河川の内2番目のいい数字になりました全国的にも23番から25番ぐらいのところまで水が良くなったとそういうことになっております。合わせまして河川敷を上流と下流に分けまして上流は、スポーツ公園、そして下流は、散策の公園あわせて子供たちが、もっと水に親しめるようにとこういうことで水辺の学校授業と言うのが建設省で3年前初めて河川法が改正になった時にできたのですが、それにあわせて護岸工をやっていただきまして、上は、我々でやらなくてはならないのですが、ちょうどトータルしますと約2.3キロから2.5キロ、そして面積でいいますと16、17ヘクタールの河川敷ができたという風になりました、先だっては、NHKの朝のラジオ体操で約4000人以上の方が集まって河川敷で行ったとそういうことになります。ですから21世紀、私自身は、川とどう親しむかそうした中でどのように健康づくりをしていくか、そういうことが、大きなポイントになるのではないかとそのように思っております。

コーディネーター ありがとうございます。水質に関しては、ワーストの方から中位までのし上がって見えたということで、これも素晴らしいことだと思います。ありがとうございます。

同じように、大阪の寝屋川市ですが、非常に河川系の公園をたくさんお作りになって、そこでの子供たち学校の利用とか、それから作った後の維持管理の問題とすることをご紹介願えればと思います。寝屋川市宜しく願いいたします。



寝屋川市 寝屋川というのは、淀川と寝屋川という2つの大きな川がございまして、そのなかで、大きな淀川については、建設省がやっていただいた淀川河川公園という大きな川がございまして、そこらあたりでは、財団を中心にして管理をさせていただいているのですが、治水緑地も大きなものが大阪府の事業でございまして、それらの管理については、寝屋川の方でやっておるわけでございます。それ以外にもいろいろ我々としても、寝屋川市は、先ほどのスライドにもございましたように住宅都市でございまして、大阪と京都の間にあるわけですが、その中で寝屋川というのは、河川敷というのがあまりございませんので、非常に我々としても浸水対策とか治水対策、下水道整備を優先してきたということもございまして、親水空間としては、なかなか今現在まだ出来ていないのが現状でございますが、その中で今後ですね、やはりその地域と共同した中で人と川が共存してですね、やっていけると市長が、提唱しておりますが市民と共同して元気都市寝屋川を作ろうとこういうことでやっておるのですが、特に本日も来ていただいておられます寝屋川市青年会議所と言うところが、寝屋川の川に関するシンポジウムとかもやっただきましていろいろ頑張っているんですけど、川の管理といえますとですね、そういうことで今後ですね、来週の日曜日には、クリーンロード2000ということで住民のボランティアを募集して道路をきれいにしようということでたくさんボランティアを募集した訳ですけども、それらを一つの継起としてですね、今後さらにボランティアの活躍を主体としたですね、そういうことも含めて展開をしていきたいなとこのように考えております。

コーディネーター ありがとうございます。ふたたびまた、ボランティアの存在というのが浮かびあがってまいりましたけれども、滑川町のほうで、谷津の里作り、それから、エコミュージアムこれのご紹介とそこへのその子供たちの見学や利用の誘導ですか、何か積極的に子供たちに見せる、触れさせるというその辺のご紹介を願えればありがたいのですが、よろしく願いいたします。

滑川町 埼玉県滑川町でございます。町長の上野と申します。滑川という川は、昨日もちょっと申し上げたのですが、13.5キロというここに参加している団体の中では、一番小さい、あるいは、幅も30メートルぐらいで本当に小さい川でございます。まあ、そういった川でもともと里にある川で清流と言うほどのものではなかった訳でございますけど、そこにミヤコタナゴという国の特別天然記念物でございまして魚がいたわけなんです、今は、それが居なくなってしまったと言うようなことからエコミュージアムという、これは、文化庁の事業でございましてここを拠点として街全体を博物館にしたその谷津の里作りというそういった事業をやったかどうかというように今そのミヤコタナゴのエコミュージアムで人工の繁殖と展示をやっているわけでございます。そして、今年まだオープンしたばかりでございましてなかなか誘導といったそういったことも出来ませんが、とにかく子供さんたちによく見ていただきたいということからまず、地元の子供さんたちに探検隊という、子供さんの希望によりまして50名程度の方に来ていただきまして、このエコミュージアムそのものの事業というよりは、その周辺に池を作ったり、田んぼを少し作ったりしまして、このミヤコタナゴも里山とそういった小川とか、そういった関係が深いものですからまず田植えをしていただいたり、あるいは、そば作りをしていただいたり色んなことをしていただく中でその収穫ときには、もちをついたりおそばを食べたりエコミュージアムでやっただくとそしてその繁殖の状況、人工繁殖をどういう風にやるのか、あるいはミヤコタナゴが、今は人工でやっておりますけど自然では、どういう風に繁殖できるのかと。タナゴは、二枚貝の中に卵を産み付けてそれで増えるものですから貝がなかなか今、居なくなってしまったということからまあ、その貝も増やさなくてはならないということをやっているわけでございますが、子供さんたちも非常に興味を持ちまして本気になってこのごろやっただいていられるわけでございます。そういったことと、こちらに子供が二人、非常にお世話になったわけですから帰ってきまして非常に町長、楽しかつ

たよと、そして非常に親切にお世話になったという話しをされた後、なんと滑川の街の水が一番汚かったんだよというこのような報告を受けまして、あれっそうだったのということで、なるべくきれいな所の水をくんでいったわけなんですけれどもそんな状況でございますので元々それほど里の川ですからきれいなわけでもない訳ですけれどもこれから水浄に努めていきたいそして、子供さんたちにもそういった川に関心を持っていただきたい。そしてもう一つは、川の元々の蛇行している川がそのまま残っている部分がございますのでそういうものは、そのまま今、ショートカットするだけでなく残して、そしてそれを親水公園にしていきたいと言うようなことも今、県と町で話し合っているということでございます。お答えになるかどうかわかりませんが以上です。

コーディネーター ありがとうございます。そもそも水質が問題になりましたそうとう昔、30年、40年、50年前、最初のキャッチフーズが覚えておられると思いますがカムバックです。そこで今言われました、ミヤコタナゴ、そして今日のご参加の市町村の中にもホタルを中心というところもございますけれどもある程度こう、一つのシンボルを設けるというのも、川を守る、そして子供たちが川と接触するこれも非常にいい方法かと私考えております。そうしますと、ちょっとここで場内に建設省からお越しだと思いますので、先ほどから少し話題がでございました建設省の格別のご高配、それから維持管理について何か簡単なコメントを頂戴出来ませんか。建設省の方か工事事務所の方でも結構でございますがお願いします。できれば、有益なセッションを頂戴したいと思うのですが。

建設省三重工事事務所長 建設省の三重工事事務所からまいりました所長しております藤田でございます。宜しくお願いたします。今日は、今まででも非常に各自治体の方から非常に熱心な取り組みを聞かせていただいて、あらためて感じとったわけでございます。今、いわゆる地方公共団体とですね、それから国が管理し

ている川とのですね役割の分担といいますか共働、一緒に働くということが、非常に我々のサイドでも議論されておりますし、皆様方にもいろんな議論がされてると思います。そして今、ご指摘の管理と言うことなんですけれども今のところ国としてはですね、例えば宮川も下流の方は、私共が直接管理させていただいているのですが、その元々の川の魅力と言いましようかですね、骨格の形作り、あるいは治水上の安全、そういうところはですね、国の方でこれからはしっかりやっけていこうと、あるいは県の管理にしても地建のたぶんしっかりやられるということだと思っております、さらにそのきめ細かなですね、川作り、あるいはその住民の方との対話とそういうところになりますと、これはむしろですね土台というものをしっかり我々が管理させていただいた上ですねこれは、地域地域でやはりその特性にあった管理の仕方があるんじゃないかと、むしろそういう所にお任せした方が、非常に個性豊かな川が出来るんじゃないかと、そのへんのうまい組み合わせが非常にこれからますます大事になってくるんだらう、ですから例えば、川に草が生えてですね非常に殺伐とした状況になっていると、あるいは治水上も良くないというものをただその国の方ですね業務として刈るのがいいのかですね、もうちょっとそれを付加価値をつけてですね、公園とかですね、そういうものですねあるいは、ボランティアの話とくっつけてですね、またそういう機会を通じて川のいい面、あるいはちょっといやな面ですね、そういった両方の面を感じていただきながらいろんなことを考えていただく、また非常にいい機会になると思うんですね。そういう意味でそのやはり共働作業と言いましようか、パートナーシップということこれからますますいろいろ話し合っていかなければいかんんじゃないかとそういう事を感じておりますし、我々サイドもそういうことを是非進めて参りたいとこう思っているわけでございます。

コーディネーター ありがとうございます。ご存じのように先の河川法の改訂で建設省が管理されております、全国の一級河川すべて一律画一的な管理ではないんだよ、やはり地元で地

元の工夫、それを共働で盛り上げたいというような、そのような姿勢に大きく変わっておると理解していいんでございますね、所長。はい、ありがとうございます。

さて、そうしますと先ほど水質の話も出てまいりましたけれども、今日も子供たちの呼びかけにございました、その生活排水対策。ともかく、清流の根本は、流れの汚濁を防ごうと、それから個人的にもう一つあるんですけども、やっぱり流れというのは、動かなきゃいかんですね。やっぱり、動いてこそきれいな流れができるということなんですけれども、とりあえずその排水対策についてお話伺いたいと思うのですが、繰り返しになりますが、普及の重要さは、論を待たないところだと思います。しかし、実際推進するには、かなりの難しさがあると思うんですけれども富士川町の方で、いかがなものでしょう。そういう、いわゆる下水もしくは、生活廃水処理といった取り組みでございますけれども。

富士川町 富士川町、小林と申します。富士川町はですね、昭和61年4月頃からですね生活排水の汚濁防止と言う目的で、合併処理浄化槽設置補助金交付法要項というものを作りました、その翌年4月に全国に先駆けましてですね、生活排水対策指導要項も施行していると、そして昨年、11年度で約100件ほどこの補助金を交付しております。来年の4月から義務化になりますものから今年度12年度についても現在のところ109件ほどというかたちの中で補助金が出されております。以上でございます。

コーディネーター ありがとうございます。例えば、今の富士川町で鋭意条例を制定された、で富士川町が頑張ってもこれは今度、上、下流の問題がございまして。川は、上流、中流、下流流れますもので、そういったその水質を元へ戻す、きれいな川を作り上げるんだということですね、上、下流の連携と言う問題について、この地元宮川村にお尋ねしたいと思うのですけれども、何か積極的な取り組みをされているとかがおられるのですけれど宜しくお願いたします。

宮川村 今、取り組んでいますのは、やはり公共下水道とそれから合併処理浄化槽の整備の推進です。高齢化率も38パーセントというようなことになってきてまして、非常に高齢者が多い。あと、生きていても数年だと言うことで現在のトイレを改造するにもその費用を捻出していくのが厳しいと、そういうことで、何とか議会あたりでも貸付制度が出来ないだろうかと言うようなことでいろいろ言われております。工事の部分につきましては、いわゆる改造の事で自分の費用でやって下さいよと、ただ、汚水桝なりあるいは、合併浄化槽から下流側については、すべて村の負担でやらせていただくと言うことで、よその町村では、いろいろと負担はとられているようなんですが、その部分負担なしでやっけていこうと言うことで今、考えているところでもございます。いろんなイベントなんかも通じやっておりますけれども、少し、今日、昨日でしたかお話がございましたのですが、やはり水量豊かな川をつくっていかなあかんと言うことで昔と比べれば非常に水量が減ってきていると言うようなこともございますし、あるいは良質な水が下流としては欲しいよということをおっしゃられます。まあ、そういう意味で伊勢湾に流れ込む、先ほどの子供の話ではありませんけれどもやはり、伊勢湾に流れ込む水を少しでもきれいにしていこうではないかということから村でも環境保全林の整備事業ですとかあるいは、下流側からは、三重県の漁連さんですけど漁民の森ということで今年で3回目だったんですが毎年きていただいているような整備事業をやっていただいております。まあ、そういうことでルネッサンス協議会としましていろんな取り組みを進めていこうじゃないかと言うことで今年、その協議会が設立されました。それまでは、宮川と共に生きる会と言うようなことでもございましたが、流域の文化、あるいは環境保全に対するそういう認識を深めていこうよと、あるいは産業の振興を図っていこうよと、いうようなそういう位置づけの元に進めておりますけれども、まだまだ具体的には、なかなか進めていくには少しまだ足並みがそろっていないというような部分がございます、うまく進んでいないところもあるわけなのですけれど、そい

うことで、上、下流の連携と言うことで、とにかく私どもとしては、上流の責任ということで少しでもきれいな水を育めるような、そういう森林整備というのが、まずは大事じゃないかとそういうような位置づけのもとに今、進めているところでもございます。そしてまた、やはりゴミを出さない、あるいはそういう認識を深めていくためにいろんなイベントも開催しております。清流フェスタというのは、漁業組合さんがやっていただいておりますけど、そういうようなイベントなり、事業の中でひとりひとりがその認識を深めていく、8月末には、全村民が出ていただいて環境クリーン運動なんかもやっておりますし、6月から8月いっぱいまでの毎週日曜日、役場の職員もボランティアで出て河川なり道路沿いの清掃作業なんかもやっております、そういうものが、上流に住むものの責務ではないかと、そんな位置づけで今進めているところがございます。以上です。

コーディネーター ありがとうございます。先ほどの白川町の方からお話がありましたように、いわゆる水源に位置する行政体としてやっぱり森林の重要性、そして下流にきれいな水を流していくと、まあ足並みは、なかなか温度差があるということですけども、ともかく始めなきゃいかんということでございます。おそらくそういったことの延長上で、先ほどちらっと話が出ました水源税というものもこれから真剣に考えていかなきゃいかん時代にきていると私は思っております。どうでしょう、今、宮川村の村長さんご発言になったのですが、宮川村の方、何かその生活排水に関して、ちょっと尋ねてみたいことがあるとか私はこう思っているんだとかいうことございませんか。2分間ルールでご発言いただいてもけっこうでございますが、よろしいでしょうか。また、何かあれば手を挙げてください。

えっと、そうすると滑川町の方では、皆さんご案内のように生活排水処理は、いろんな手法があるんですけども、かなり各種の排水整備事業を導入されておると伺うのですが、その基本方針とかなぜ、そうなったかとかいうようなことをご説明お願いできでしょうか。

滑川町 はい。滑川町は、小さい街ですけども市街化区域と調整区域と格差がありますので市街化区域は、当然公共下水ということで整備しております。また、農村地帯は、農村集落排水という事業がございますのでそれを整備しているんですけども、その中間がどちらの事業にも入らないというところがございます、そこを合併浄化槽という事業で、やはり条例を設けてこの3つの事業で街の中の水の浄化をしていきたいとこのような計画を立てているわけがございます。

コーディネーター 単独浄化槽の存在というのは、かなりあるのでしょうか、滑川では、単独浄化槽、合併浄化槽でなくて。

滑川町 そうですね。早く家を建て替えた家は、そういった状況にあるんですけど今それをほとんど合併浄化槽に切り替えていただいているというような状況でございます。

コーディネーター ありがとうございます。これもまた子供たちの呼びかけにあったんですけど、そういった廃水処理は、もちろんのことその家庭での、我が家から出す水質をそんなに無理に汚さないで程度きれいにし出せば、下水の処理の負荷というのですか、処理のエネルギーもそんなにかからないじゃないかそのような発想もあると思うのです。

加茂川町、家庭排水の台所対策といったことで何か実施しているとうかがっておりますけども、そういったことが、例えば学校でそういうのを教えられるのか、子供たちが家に帰ってきて実行するのか、それとも家庭の方が積極的に



そういったことに取り組み始めたのか、そのへんのことをご解説出来ますでしょうか。

加茂川町 加茂川町は、第12回の全国川サミットを平成15年にお受けするように昨日の総会で決まりました。どうぞここにおられる皆様方、加茂川においで下さい。

私は、ずっと毎回このサミットへ参加させていただいておりますが、このサミットでいろんなエネルギーをたくさんいただいて帰っております。まあ、そろそろ10回になるので自分自身でいろいろ総括というか反省をしておりますが、今さっきから水源交付税の話がいろいろ出てまいりましたが、森林交付税の創設の時から私はずっとその会合にも行っているのですが、最近では、その総会で漁連の大漁旗がずっと会場に張られるようになってきた。これはやっぱり水の源は、山と、山を大切にしなければいけない、そして環境を守っていきこう、水の環境を守っていきこう、そういうことがだぶん浸透してきたと思うのです。ところがまだまだ、思想は、普及したものの実際面では、非常に深い山では、ゴミを持ってきて捨てられる、あるいは大水が出たらゴミを持ってきて流されるというようなことが後をたたんというのが実際に現状なんです。今年初めて宮川でこども川サミット(川の学校)を開いていただきまして、村ぐるみ、子供からこうしてですな、思想普及、川を大切にしようという取り組み、大変敬服をいたしております。私の街はですね、時間がないので余り余計はいえませんが、皆さんの所のように国管理の一級河川がどんと通っているのではありませんで県管理の一級河川が、小河川がずっと10本ぐらいあるのです。その小河川の周辺を整備をして出来るだけ、子供が中にこもった遊びをせずに外で遊びをするようにということを機会あるごとに皆さんにお願いをしております。ですから、小河川の整備のお手本になるようなものをしようということでもう長い間かかってキャンプ場でありますとかあるいは、レーシングカーの公認コースでありますとかローラースケート場でありますとかそういうようなものを小河川のほとりを整備してやっておると言うようなことでございます。それからその浄化槽の

話はですな、私の所は、公共下水で結べるような集落の密集地はございませんので、農林省の補助を受けまして農業集落排水で6団地、そして後は、合併浄化槽でいくと言うことで計画を樹立をいたしまして順次進めていると、今、農業集落排水が2団地できあがりしました。それから合併浄化槽は、毎年度30ずつぐらい、進めているとそういうような状況でございます。ありがとうございます。

コーディネーター ありがとうございます。教えていただきたいのですが、例えば先ほど宮川村では、合併浄化槽だと全額、村が負担するということですけど、私たちが思いますのは、農業集落排水、合併浄化槽、それから公共下水、それぞれ下水料金が違う、維持管理費が違うということが有ると思うのですが、そのあたりは調整されておられるのでしょうか。

加茂川町 今、それが課題になっておるのですが、合併浄化槽の場合は、申込金を30万円いただくようにしております。それが3年で済むようなところは、1年間に3回に分けてもらうか、10万円ずつか、4年かかれば4回で割る、2年で済めば、早く払うと言うような決め方をしております。それから後の管理は、どちらかという合併浄化槽の方が実は高くつく訳ですな使用者にとっては、そこら辺の調整をどうするかと言うのが、今ひとつの課題でございます。現在の所、国が1/3、県が1/3、町が1/3、後は自分でして下さい。そういうことです。

コーディネーター ありがとうございます。水質パケットテストを積極的に進められている肱川町の方、いわゆる学校教育と家庭の排水と言うことで何か、ご報告ございますでしょうか。

肱川町 先ほど、自己紹介の部分を飛ばして感想を述べましたわけでございますので、ちょっと肱川の紹介をさせていただきたいと思っておりますが、肱川は、愛媛県で一番大きな川でございますし、一番立派な川だと思っております。その川が街を貫流しまして、山と谷の街、私とこの方は、山と川と言うことであります。そういう

ことで川、ダム、街、花の街、温泉の街、風の街、歌麿の街、こう言うようなことでやっております。歌麿につきましては、後ろへ見本を持ってきておりますが、どこにもないものを復元しておりますので、またご希望の方は、購入していただきたいと思っております。それで、水の汚れ、こう言ったことにつきましては、どなたも思いは同じでありますし、現実も同じであると思っております。私の方も次第に良くない状況になってきております。それで、愛知県の各務原のことは、ここはお近くですからご承知だと思っておりますが、人参の生産のたいへん盛んなところで、あそこの市長さんの話を聞きますと非常に作物が熱心なので地下水汚染がでてきて、これを回復するのに大変苦労されたということでございますが、私の方の山と谷の街でも、農業の熱心な所の飲料水が、飲料不適になってくると、それは、いろんな肥料が余分にいきますので自然にしみこんでいく。こういうようなことで今山の上に水源を求めて水道計画をばちばち見直すようなことを考えてやっておるわけなんです、何十万種という科学的物質が出てそれが最終的には、地下へ雨でしみ込んでいき、川へ流れていくということですから、私は、非常に絶望的な気持ちを持っておる訳なんです、最近の新聞等でも非常に人類の将来を憂うようなことがたくさん出ていくわけなんです、経済中心で豊かな事は良いことだということでやってきた結果がこうなりつつある訳ですが、これを改めるといのは、到底出来ないわけですが、色んな啓発事業をやっているという事で、川、原簿を作ったり、土地の原簿を作ったり、あるいは、森林交付税の問題でありますとか、ドラゴンボート大会も全国で一番最初に始めた訳でして、現在も筏流しなどの行事もやっております。いずれにしても、水質が少しでも良くなるように各町村とも同じような考え方を持っております。それでまず一番やりやすいことは、川に親しんでいただくということをやっているということで現在道の駅をやっておりますが、川の駅もやりたいという風な事で、とにかく、先ほどもお話がございましたが、みんなが、川とまず親しんでいただくということを一つの目標にやっておるところでございます。

コーディネーター ありがとうございます。地道な活動、川に親しむと言うことと共に先ほど地下水汚染に関しては暗澹たる思いということのご発言があったのですが、三重県の方は、何か産業廃棄物条例を新しい試みをするということをお伺いしたのですが、そういう試みがあるのでしょうか三重県の方は。別にまだ制定は、されていないのでしょうか。県の方がおられれば、いいでしょうか。また後でお尋ねいたします。さてそうしますと、今まで排水改良、もしくは水質汚濁防止の話でしたけれども総合的な話で、条例の制定も少し話がございましたけれども、そういった話になるのですが、ここで非常に特異な事例、十津川村が、水力発電ダムにバイパスを設けられたということなんです、これは非常に大きな問題だと思っておりますが、この辺あたりの経緯と現状ということをご報告お願い出来ますでしょうか。宜しくお願いいたします。

十津川村 本日、参加されております皆様方の中では、宮川村さんとは、一番近い位置にあります十津川村でございます。十津川村には、今朝ほど来、見学させていただきましたような大きなダムが2つと、そして支流には、小さいダムが幾つかございます。その内のひとつでございますが、関西電力さんが作りました奥吉野の発電所でございますが、小さい川に作っております関係で大きな雨が降りますと、ものすごい濁流となって流れまして下流に土砂が流れますし下流の人からいろいろなんとならんかと言うことで、折衝してきまして、そしてバイパスをバイパスの長さは2.4キロなんですけど毎秒140トンの汚水を流していただいております。大水になりますと、ダムの方をシャットアウトしましてバイパスへ流しまして、そしてきれいな水がもどってきますとそっちを止めてこちらへ流すと、だいたい100億円ぐらいかかったそうでございます。まあ、これによりましてダムは、いつでも本当に澄んだきれいな水が溜まっているようでございます。このぐらいでよろしいでございますか。

コーディネーター それで、一点気になることがあったのですが、ダムの水はきれいになった

のですが、バイパスで放流された下流の方は何か問題提起ございましたか。

十津川村 まだ、下流に本流の大きなダムがあるので。それにものすごい濁り水がいきますので、その地区はよろしいんですけど。

コーディネーター はい、ありがとうございました。県の河川課長さんお見えになっているので、これは国の話ですのでちょっと県とは違うと思うのですが、ダムにバイパスをつけるとかダムからある程度回復流量を流すというような、こういった全国的な傾向というのは、あるのでしょうか、簡単にご紹介お願い出来ればと思うのですが。

河川課長 今のお話に関連しましてですね、まず、ダムにおきまして発電専用ダムというのがございまして、その際にダムで止めますのでダムから下流には水が行かないとそういう状況が全国的な話がございます。それにおきましては、一定の水を、無水区間と言うのですか、ダムの下流は、水がなくなるというような状況でありまして、それを回復するために改善するために一定の水を流すとそういうような、制度と言うのですか、全国的な取り組みは成されております。

コーディネーター ありがとうございます。今おっしゃられたように有る程度水力発電は、水力発電から計算の根拠はあるようですがけれどもある程度下流へ流すということが全国的に徐々にと言うかかなり最近普及しているという噂は聞いておりますけれども、十津川の場合は、非常に大胆な試みでとにかく大洪水を外へ流してしまうんだ。

十津川村 ちょっといいですか。関電さんにお聞きしましたところによりますと、こういう方式は、ここだけだそうでございます。

コーディネーター ここだけというのは、もうこれで打ち止めということですか。

十津川村 いえいえ、初めての試みだということです。大変好評らしいと言うことらしいです。

コーディネーター さて、そうしますと、そういった新たな試みとか全部に網をかけるための条例の制定なんですけれども、加古川にお伺いしたいのですけれども加古川市相当熱心に条例の制定、そして清流の保全と水辺の街作りでしたか、それから生態系に配慮した河川の改修だとか、かなりこう、大きく網を打つような試みをされておるのですけれどもそのあたりのご紹介と難しさ、もしくは、順調にいったらいいようなご報告があれば頂戴したいと思います、加古川市の方から宜しくお願いいたします。

コーディネーター このサミットの中で私が私のところだけでございまして、ちょっと加古川市の紹介を先にさせていただきたいと思っております。加古川市は、兵庫県の瀬戸内のちょうど中央にありまして、兵庫県3大河川であります下流端に位置しております。今、人工27万ほどでございます。今日、ちょっと感想を述べさせてもらえますか。うちの所は、小学校27校もございまして今問題は、学校の生徒、先生方の間にそれぞれの学校で問題が起こっております。そういった中、今日宮川小学校の皆さんが一体になって、全校一体になってですね、あんな素晴らしい語りをしてくれたということをお大変感動いたしました。この宮川の素晴らしさは、プラス学校の素晴らしさ、先生生徒の素晴らしさを本当に感激してうかがわさせていただきました。本当にありがとうございました。

先ほどのご質問の件でございますが、加古川市は、平成7年に潤いと安らぎの街を目指して加古川市清流保全と水の街作り条例を制定して平成8年からこれに基づく水質水量の確保とか人と自然の共生、水文化の振興こういったことに取り組んでおります。個々の事例が出るたびにこの条例に基づいてやることにしております。そういったなかでひとつ特異なものもございまして、ひとつ紹介いたしますと、加古川本川には、関係ないのですが、加古川の下流部に合流しております、ヨコタ川と言うひとつの準用河川がございましてこの河川が都市区画整備区域内に

流れております、しかも蛇行しております。これをショートカットしなければいけないということで、これに対しましてまず、ここにいる生物を調べようではないかということで、これは、兵庫県がやっておりますトライアルウィークというのが中学2年生を対象とした一週間の体験学習がございますが、それで地元の皆さんと一緒にそこを調べたら、準用河川、汚い河川だと思ってるなかで県のレットデータにも上がっております、希少なものが20種類発見されました。このことから、新しい川を河床張りのコンクリート張りにしようとおったわけですが、それはいかん、こういった生物を保存するには、やっぱり生物が今後生存できるような自然河床にしておこうということで、それに対してその案等も地元の皆さん、子供と一緒に一致しました。それから、残った川も本来埋めてしまうのですがこれを残そうと、そしてこれは、景観を大切にしたいとして整備をしようということでこの計画についても子供たちそれから地元の皆さんみんなで計画をしていただきこれから進めていきたいという風に考えております。以上でございます。

コーディネーター ありがとうございます。今おっしゃられたヨコタ川、準用河川ということでどちらかと言えば町が、市が管理できる河川そのへんの利点というのは、ございますか。子供たちと一緒に計画と言う場合、もしこれが一級河川、もしくは県河川ですとそうはいかなかったのか、いや今の時代県河川でも国河川でもいくぞと言うような感触は、ございますでしょうか。

加茂川町 私も、もと県の河川課におりましていろいろ仕事しておったものですから反省点もありますが、最近兵庫県でも共に地元の人たちと改修、公共事業をやるということ去年からですかスタートしております県の方もいろんな河川改修をやる時に地元の意見を聞いてそれでやりましょうと言う方向になっております。そういった中で、市の全体からしたらそんなに貴重なものではないでしょうけれども市としては、大変残しておきたいものであると、い

うようなことを市の判断でできるということは、非常にプラスであったとこう考えております。

コーディネーター ありがとうございます。今数多く例えばキーワードだけで思い出してもボランティア、水源税、山の整備、そして合併浄化槽の推進、もろもろでございますけども、ともかく次の世代を担う子供たち、これは、非常に少し機械的な言い方をいたしますけどやっぱりこれからの国力の一番大きな資源、それを川を通して自然を報せる、自然といかに共生させるかということがございますけれども、今までのご報告、ご説明いただいた話をふまえて、これからより以上子供たちに川を知ってもらう、自然を知ってもらうと言うようなこと、今までのご報告をふまえて、宮川中学の左近先生、例えば教育行政とわれわれの想いのあり方、はたして乗り入れが可能なのかというようなこと、なにについて注意していかなければいけないか、教育上自然と接する場合、その当たりのコメントを頂戴できればと思いますが宜しくお願いいたします。

左近先生 はい、なんか難しいかなという感じで考えておりますけど、教育の方から考えていきますと、今総合的な学習の時間と言うのが導入されるということで各学校の方は、その内容についていろいろとカリキュラム編成等努力しております。ここの中学校、小学校につきましては、規模が小さいということもありますので割合に小回りがきくところを前提においてお話しさせていただきますと、結構小さいですから動きやすい、ちょっと試してみようかなといった時に学年一クラスですから隣の小学校、中学校の川に遊びに行ってみようとかちょっと山に試してみようといった場合には、非常に動きやすいなということは、ありますただここも本流まで行こうとしますと小さい子供一年生、二年生の子供をつれて、宮川に下りていくには、天ヶ瀬、ちょっとこの上流ですけど、ちょっときついもんがあるかな、まあ中学生ぐらいになれば、平気かなという感じはあります。そういった中で子供たちが、川とふれあうということと川サミットでも感じたのですけども川の水、

虫、石、そういった石と言えば大地ということになるかと思えますし、それが山につながっていくと思うのですけどもそういったものと直接ふれ合っていく事で肌で感じていく、感性で体にしみ込んでいく部分というのがたくさんあるかと思えます。それが、非常に大きな学習の上で本当に大切な部分でないかなというのは、感じました。学校というのは、それをどうやってまとめ上げていくのかな、教科というのがありますけどもその中でまとめてあげて義務教育の中でいろんな概念というのをきちっとつけてあげるという場ではないかなという風にも感じておるのですけども。まあ、そういった時にこの学校でしたら日常的にそういった場で学習ができるということでしたら横にある谷、もしくは周辺の山に入ることで日常的に授業1時間を使って、ちょっと見に行こうかってそういう場がもし有ればいいなと考えております。これは、どの自治体でもいえることなんじゃないかなと思えますが、その自治体の特有の植物、動物と言うものがあります。川には、石が落ちていきますけども、その石は、その川の上流、中流、下流のどんな石、大地でできているのかな、また流れはどんなのかな、ということをお話してくれるものだと思います。そういったものを見ていくことで大地の様子、自然の様子、と言うのがみえてくるかなという大事な部分じゃないかなと思えます。教育と行政との関係なんですけども、そういったことを考えますとなかなかこう、どんとやろうと思えますと遠くまでいくというのが、今の状況では、難しいものがあると思えます。ただ環境整備というのを十分していただきたらまずは、親子で小さい子供とお父さんお母さんが遊びに行ける、安心して遊ばせてあげられるような環境作り、その中で水遊びができて、虫とりができるとかそういうのがあれば自然とついていくかな、そして学校はうまくすくい上げていくような場面があってもいいんじゃないか、そしてボランティアという話がでておりましたけども社会教育というものも有りますので、そういった中で夏休みとか休みの日曜日、土曜日というそういった時にちょっとした教室等をひらいていただくというようなかたちというのも考えていってもよろしいんで

はないかなと思えます。ちょっとまとまりがありませんけどすいません。

コーディネーター ありがとうございます。我々こう、川をいじっている者からしますと文部省が、総合教育でしたっけ、そこがですとすぐ乗れないかなあっと考えてしまいますけども、それは、やはり往復の時間とか、あとカリキュラムを考えると、そう我々が思っている形では乗れないよ、てなことだと認識して良うございますか先生。むしろ身の回りに小さな自然そういったものを見つけてそこでこう、接触させるということが伺えます。ありがとうございます。

私、かなり時間をけちっているいろんなお話を伺おうと思ったのですけどどうも時刻になってしましまして申し訳ございません。今日こうしてお集まりいただいて皆さんが本当に熱心にそして参加の各自治体の方も川と子供を接触、触れさせて自然との共生を覚えさせたい。その思いは、どこからでているかと、私自身も振り返って思いますが自分たちが子供の頃は、川がきれいで遊んだこと、いろんな虫や魚、鳥とも遊んだこと、だから私たちの子供たちにもそれを覚えさせてやりたいという集いだと思っておりますけども問題は、その次の私たちの子供、孫の時に彼らが自分たちが大人になって、見た川が汚ければ、そのまた自分の子供たちに川遊びをさせてやろう自然を覚えさせてやろうという発想は、出てこないと思うのです。だからおそらく今が、おおよそラストチャンスですかね、日本の川をやっぱり清流、きれいな川にしていかなければならない。今日は、いろいろお話伺いましたように本当、皆さんが一步一步地道に地道になさってる、力強い感じを受けた次第でございますけれども、非常につたない司会でございますけれども、一応これで川サミットin宮川シンポジウム討論会は、終わりにしたいと思います。

水は、私たちの生命の源です。私たち人間は、水なしでは生きていけません。その大切な水を育むのが川です。

昔は、水がきれいのでこの川や谷にもメダカやフナなどの魚が泳いでいました。ところが、人間の生活が便利になり、豊かになるにつれて生活排水が川に流され、ゴミが川に捨てられるようになりました。

その結果、川が汚染され、魚などの水性生物ばかりか、人間の生活さえもおびやかされています。

川を今の姿にしてしまったのは、私たち人間です。人間の手で汚してしまった川をみんなの力で少しでももとの川にもどさなければなりません。

私たちは、「全国こども川サミットin宮川」での「川の学校」を体験して、その後の話し合いの結果、次のような宣言をします。

- 一、私たちは、ふるさとの川に感謝しながら、美しい川づくりを進めます。
- 一、私たちは、ふるさとの自然を愛する心を育て、小さい子どもたちにその大切さを教えていきます。
- 一、“ちょっとすてきな川家族”というテーマのもとで、共に話し合い、活動した仲間と交流を深め、友情の輪を広げていきます。

平成12年10月14日

宮川小学校6年生代表 松林祐輔
森下沙紀



私たちは、台高山脈に源を発する三重県最大の河川「宮川」の最上流域宮川村に集い、「川に愛される人になりたい～ちょっとすてきな川家族～」をテーマに、第9回「全国川サミットin宮川」を開催しました。

昔から川は、人々の暮らしと深い関わりを持ち、時には恵みを、時には試練を与えてきましたが、いつの間にか忘れ去られてしまっているのではないのでしょうか。

近年、人々の川に対する価値観が変化し、豊かできれいな昔の川を取り戻すことの重要性が問われています。

昔の川を取り戻すということは非常に難しい問題ですが、私たち大人は、21世紀を担う子どもたちのために、川家族の一員として、自分たちの愛する川のために小さくてもいい、今できることから取り組むことを誓い合い、次のことを宣言します。

1. 21世紀を担う子どもたちに、もっと自分たちの川を知ってもらうため、学校教育と一体化した取り組みを進めます。
 - (1) 自治体独自の川の教科書を作成し、積極的な活用を図ります。
 - (2) インターネットを活用して、全国自治体学校間の川を通じた交流を図ります。
2. 地域住民による河川の環境クリーン運動等を展開し、川を愛する心の醸成に努めます。
3. 川に関わるイベントを通じ、川の歴史、文化の啓発に努め、河川愛護のための取り組みを進めます。

平成12年10月14日

第9回全国川サミットin宮川参加者一同
代表 宮川村長 尾上武義

宮川小学校全児童による よびかけ

わたしたちの村のまんなかを流れる (章大)
宮川 (全)
宮川は、昔から (雄平)
たくさんのめぐみ人々に与えてくれた。 (海山)
昔は、大杉谷で切った木を伊勢まで流していたんだって。 (智恵)

トラックで運ばれなかったの? (健太)
トラックも車の通る道もない時代だったんだよ。 (やすは)

天ヶ瀬からは、流れてきた木をいかだに組んで (理保)
いかだのりさんが ろをこいで、 (友朗)
伊勢まで運んでいったんだって。 (悠馬)
むかしむかし (1年)
宮川は (2年)
大事な大事な (めぐみ)
道だった。 (全)

大雨が降ると (大貴)
たくさんのアユがあみに入った。 (かおり)
そのアユを、炭火で焼いて乾燥させ (麗加、貴将)
いろんなごちそうをつくったんだって。 (真帆)

むかしむかし (1年)
宮川は (2年)
たくさんのアユを育て (菜)
人々に楽しみを (5年全)
与えてくれた。 (全)

その頃の子どたちは、 (祐太)
毎日毎日、日が暮れるのを忘れて、宮川で遊んだんだって。 (侑平)
どんなことをして遊んだの? (康平)
鮎のシャクリ (真弓、健斗、祐太、夏実、太智、和紀、星矢)
うなぎつり (瑞季、真帆、彰人、雄基、宏樹)
高い岩からのとびこみ (はなの、奈津美、侑平、朱理、康平)
水泳 (大輝、良子、あずさ、実沙紀、美紀、史織、隼佑)
魚や虫探し (勇人、実希、綾香)
むかしむかし (1年)
宮川は (2年)
子どもたちを (雄基)
たくましくたくましく (宏樹、彰人、実希)
育ててくれた。 (全)

歌 「天使の羽のマーチ」

昔から、川は生活の一部だった。 (和美)
今、わたしたちは、宮川村に住みながら、 (奈々)
宮川のことをあまりよく知らない。 (美有紀)
もっと、宮川のことを知りたい。 (瞳)
もっと、宮川をすきになりたい。 (愛弥、慶太)
川を愛し、 (純子)
川に愛される人になりたい。 (三貴)
わたしたち (1年)
ちょっとすてきな (2年)
川家族!! (全)

(1年生)
そのかわで あそんだよ
(千晶、千春、千尋、梨恵、北斗、祐介、利昌、遥、和希)
さかなを つったよ。つったとき きもちよかった。うちでやいたら とっても おいしかったよ。 (響介、昂大)
いしのあいだに はさまとった むらさきいろのかにを いじめたったん。 (優弥、将弥、大志)
かにの すあなも みつけたよ。ちっちゃいかにが いっぱいおったよ。 (さくら、千裕)
もうちょっとで、イシャドを つかまえるとこやったのに にげられた。 (未布由、翔一)
いしのうえに ぶつぶつのついた かえるもおったよ。 (翼)

さかなの たいぐんもみたよ。 (麻由、里奈、玲奈)
たかいところから とびこんだよ。さいしょは こわかったけど いっかいできたら とびこむの おもしろなったん。 (大夢、菜津実)
とびこんだら 「あそまでおよげ」って おもっておよいだん。 (瞳、大和)
いしをけずって おけしょうも したよ。 (ひかり、由衣)
びんくや ねずみいろの こができるんだよ。 (有沙、実西、愛美香)

(2年生)
大石の川であそんだよ。 (友哉、実沙、葉月)
めちやくちやつめたかった。 (貴之、健太)
はが かちんこちんになったよ。 (真之介、紘一)
まえは、あさかったのに、こんどはふかくておぼれそうだった。 (伊紀、優、里奈)
小さな石の上から、すべりおりた。 (歩、帆奈巴、綾野、勇貴)
ジェットコースターみたいでおもしろかった。 (純花、泰海、瞳)

いわのてっぺんからとびこんだ。 (知希、愛加、貴大)
パラシュートみたいやったよ。 (龍二)
かにをつかまえたら、はさまれていたかった。 (和矢、聡一郎、亮)
たにしがいっぱいとれてうれしかった。 (朋也、茉莉)
かわった石もみつけたよ。 (亮輔、良磨、昂紀)
しましまのきれいな石。 (沙紀、百合香)
はちのすみたいなあきの石。 (夏美、将吾、綾菜)

(3年生)
天ヶ瀬の川で遊んだよ。 (史織、実沙紀)
おたまじゃくしや、かにが、いっぱいいたよ。 (綾香、奈津美)

魚もいたよ。 (隼佑)
草の先に「ヒゲナガワトビケラ」という虫をくくって、川につけて、「ガバチ」をつったよ。 (勇人、あずさ)
とった魚は、川にほった小さなあなにいれたよ。 (美紀、良子)

みんなで流れののって遊んだよ。 (朱理)
ドンドンふかいところへ流されていった。 (瑞季)
「あっ」と思ったら、わたし一人が流されたんだ。(はなの)
とってもこわかった。 (星矢、大輝)

水がつめたくて、ふかさがあって、 (健斗、太智)
でも、虫や魚がいっぱいいて (真帆)
やっぱりプールとはちがうな。 (和紀)

(4年生)
宮川は、どこまで続いているのかな。 (歩、恵佑)
それが知りたくて、伊勢までバスの旅をした。 (千睦、優)

宮川の上流はきれいな水だ。 (傑、すぐる)
あ、あれなに? (由衣)
あゆだ、あゆがとびはねてるんだ。 (丈)
きれいで、冷たい水だから、あゆがいるんだって。 (千睦、優)

でも、 (4年生)
生活排水を宮川へ流しているよ。 (崇光)
だから、がつべいじょうかそうをはじめたんだよ。 (雅則、真由子)

中流は、かわはばも少し広がったね。 (健斗)
ふちや、せが、交互にあったよ。 (彩華)
でも、水の色が少しきたなくなっていた。 (敬太)
水のそこを見ると、なめが多かったよ。 (千晴)
下流は、ゆっくりゆっくり流れてる。 (実果)
宮川の水と海の水が合流しているよ。 (晟矢)
伊勢湾に流れ込んでいるんだ。 (雅則、4年生)
宮川の水。 (4年半数)
きれいにしたい。 (4年半数)
みんなの力で!! (全)

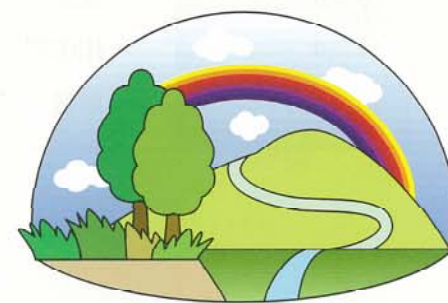
(5年生)
わたしたち5年生は、 (5年全)
理科のメダカの学習を通して (玲奈)
宮川を知ろうとしている。 (美希子)
昔は、この宮川にもめだかがいっぱいいたんだって。 (紫織)

いまはダムができ (真由)
激しい流れの川と (あかね)
流れのないダム湖 (佳苗)
ダム湖にはブラックバスがいっぱい。 (良明)
めだかがくらすには、厳しい環境だ。 (亜美)
でも、宮川村では (早織)
ほたるをふやししたり (聖磨)
アメゴやマスを放流したり (佑也)
環境条例を作ったりして (優史)
全国にじまんでできるような美しい川にしようとしている。 (佑真)
私たちは、めだかを育て 放流し (奈里)
めだかの住んでいた昔の宮川にしたい。 (あすか)

(6年生)
この夏、全国子ども川サミットに参加した。 (伶菜)
北海道鶴川の友だち (未菜)
岡山県加茂川のともだち (宏高)
全国から、川と同じ名前を持つ自治体の子どもたちが集まった。 (哲郎)

初めてやったしゃくり (史也)
高い岩からのとびこみ (祐輔)
足がくがくふるえてくる。 (良真)
えいつ。 (俊輔)
勇気をふりしぼった。 (大輝)
すごいスピードで落ちていく。 (拓也)
心の中で、「うわっ。」とさげんだ。 (俊輔)
バツシャーン。 (和弥)
やった一つ。 (正樹)
今までのこわさがスーツと消えていった。 (信行)
水生昆虫や、魚の観察。 (紫帆)
ウズムシやトビゲラを見つけた。 (亮太)
宮川桜というきれいな石も見つけた。 (夏海)
埼玉の友だちと夜遅くまで、つりの話をした。 (剛士)
こんなに身近にあった川なのに (利香)
知らないことがいっぱいあった。 (浩輝)
サミットに来た友だちが言った。 (希世美)
ぼくの住んでいる川は、ヘドロがたまって、きたなくて泳げないんだよ。 (竜也)
私の住んでいる川は、魚の死がい浮いているの。 (伶菜)
伊勢から来た友だちが言った。 (尚武)
下流では、上流から流れてくる水を浄化して飲んでいる。 (理紗)
上流の人は、下流の人のことも考えて、水をよごさないようにしてほしい。 (紘宏)
ぼくは、宮川流域の水生生物の研究をした。4年前に、兄が同じ研究をしたとき、度会町の宮リバーの下の川で、「カゲロウ」や、「カワゲラ」が10びきほど見つかったのに、今は、「ヒラタドROMシ」しか見つからなかった。この4年間に宮川の水がよごれてしまったことがわかった。 (直宏)
では、川を守るためにはどうしたらいいの? (沙紀)
ごみは自分で持ち帰ろう。 (綾加)
合成洗剤を使わないようにしましょう。 (侑耶)
川をよごさない法律をきびしくしよう。 (佳菜)
大人も子どもも、わたしたちにできることは何かを考えていきたい。 (泰史)
わたしたち (1年)
ちょっとすてきな (2年)
川家族!! (全)

歌 「山に抱かれて」



全国川サミット こども川サミットin宮川 プログラム

1日目 8月18日(金)

時間	プログラム	会場
14:00	近鉄宇治山田駅集合 ☆ 途中、宮リバー度会パーク(下流) ☆ 粟生頭首工(中流)各河川で水を採用。	
16:10	川の学校開校式(宮川村林業総合センター)	
16:30	自己紹介とゲーム	
18:00	ホームステイ	

2日目 8月19日(土)

時間	プログラム	会場
8:10	1限目 川の算数 2限目 川の国語(大杉谷観光遊覧 船内) 3限目 自然学習 4限目 川の社会 5限目 川の家庭(からすき谷公園であまごご飯) 6限目 川の理科(水生昆虫の採取) 7限目 川の体育(しゃくり竿でアユ取り体験等) 8限目 川の音楽 9限目 川の図工	
22:00	就寝(領内地域総合センター、宮川村林業総合センター)	

3日目 8月20日(日)

時間	プログラム	会場
9:00	発表会(昴学園高等学校)	
11:20	川の学校閉校式	
12:10	解散	

こども川サミット 川の学校 出席簿

■全国参加自治体

北海道鶴川町
野崎 未紗
小笠原勇哉
鍋城 緑
秋田県雄物川町
佐藤 洋平
佐藤 真理
埼玉県滑川町
吉澤 克仁
須澤 直弘
東京都江戸川区
川添 玲子
尾亦 真理
富山県庄川町
石澤 遙
柴田 恭佑
静岡県菊川町
新木 優司
小髙 遙
三重県宮川村
平岡 尚武
大森 浩輝
大阪府寝屋川市
鳥井 敦史
嵯峨根 翼
兵庫県加古川市
藤原 晃
田阪 祐臣
兵庫県揖保川町
水野 寛子
竹内 麻姫
岡山 恭佑
奈良県十津川村
柳本 淳
下野 雄大
中 雄一
温井 誠也
岡山県加茂川町
佐々木曜子
大森 由紀
鈴木 聡史
日浦亜由美

■流域参加自治体

三重県伊勢市
松月 健
出口 若奈
三重県大台町
鈴木 静
出口 りさ
三重県大宮町
梅田まどか
中村 千寿
上田 愛
玉井 志織
鳥羽 香織
西村 玲香
三重県紀勢町
谷口 丈
西村 侑樹
中村 美沙
山本 菜緒
三重県勢和村
川口 創平
中谷 直史
小筆 優志
三重県多気町
森田 潤
三重県二見町
杉野友里恵
三重県御園村
中村 紗梨
藤村あかね
三重県明和町
堀 裕喜
中村砂帆子
三重県度会町
油家 良樹
中瀬古 唯

■宮川小6年生

西岡 綾加
松原 剛士
大原 和弥
山岡 竜也
吉田 泰史
巽 亮太
吉村 紘代
森下 沙紀
小倉 大輝
東 信行
余谷 拓也
杉松 夏海
小西 利香
松林 祐輔
松林 史也
岡本 良真
森野 正樹
巽 理紗
保田 直宏
浦中希世美
平野 哲郎
余谷 侑耶
中田 未菜
松林 宏高
小掠 俊輔
脇田 紫帆
久保 佳菜
中西 伶菜

■引率者

北海道鶴川町
宮脇 公治
秋田県雄物川町
東海林宗徳
埼玉県滑川町
柳 克実
東京都江戸川区
川添 敏一
富山県庄川町
野村 勇洋
静岡県菊川町
志村 敏彦
大阪府寝屋川市
北口 隆広
佐伯 俊明
中川 猛
桑畑恵美子
兵庫県加古川市
藤原ひかる
西多 範子
兵庫県揖保川町
永峰 恵介
西川 廣
奈良県十津川村
上垣 智一
岡山県加茂川町
岸本 久夫
宮川流域市町村
伊勢市
寺田 正徳
一野 仁
大台町
中山 恵子
紀勢町
山本 善道
御園村
中谷 和人
度会町
掛橋 純

こども川サミット宮川の夏の思い出

宇治山田～開会式



川の国語



川の算数



こども川サミット 宮川の夏の思い出

川の理科



川の社会



川の体育



川の音楽



川の学校発表会結果報告

日時：平成12年8月20日(日) 9:00~11:15

場所：昴学園高校きらら寮多目的ホール

司会：山岡竜也(宮川小学校6年) 杉松夏海(宮川小学校6年)

話し合いテーマ

☆全体テーマ

自分達の街の川と宮川の違いは？

☆選択テーマ

- ①自分達の街の川でどのような遊びが出来ますか？
- ②自分達の街から川がなくなったら、どうなりますか？
- ③川についての関心はもっていましたか？
- ④川をきれいにするにはどうしたらいいですか？

班別発表内容

六十尋滝班

鶴川町(野崎未紗)	江戸川区(川添玲子)	宮川村(平岡尚武)	寝屋川市(鳥井敦史)
伊勢市(松月 健)	二見町(杉野友里恵)	宮小(松原剛士)	宮小(大原和弥)
宮小(西岡綾加)			

Q 自分達の街の川と宮川の違いは？

A 鶴川町：鶴川は、流れが速くて学校では、川で遊ぶのを禁止している。
江戸川区：夏には、河川敷にマムシがでたりして、川に行って遊んだりはしない。
寝屋川市：泳げないくらい汚い。でも昔よりきれいになった。今は、コイがたくさんいる。
川に行ったのは、2、3年前。
伊勢市：勢田川は、生活排水がながれて汚い。宮川河川敷には、広い場所がありすべり台など遊具なども設置してある。
二見町：五十鈴川は、学校から危ないということを言われているので遊ぶことが出来ない。
川も汚い。
※五十鈴川は、上流の伊勢(内宮)では、きれいで川遊びができるが、下流の二見は、汚なくて川遊びが出来ないと子供達が言っていた。

Q 川をきれいにするにはどうしたらいいですか？

A ・ゴミは、自分で持ち帰る。
・看板を立てる。
・家庭で洗剤をなるべく使わないようにする。

千尋滝班

雄物川町(佐藤洋平)	十津川村(柳本 純)	庄川町(石澤 遥)	
揖保川町(小野寛子)	伊勢市(出口若奈)	大宮町(玉井志織)	宮小(吉村紘代)
宮小(森下沙紀)	宮小(山岡竜也)	宮小(吉田泰史)	

Q 自分達の街の川と宮川の違いは？

A 雄物川町：雄物川は、あまり冷たくないけれど宮川は冷たかった。
雄物川(中流)は、宮川より汚い。
十津川村：十津川は、透きとおっている。でも、建物がたくさんある場所には、ゴミが落ちている。十津川にはダムが4つ(旭ダム、瀬戸ダム、風屋ダム、二津野ダム)あって風屋ダムはすごく汚い。
庄川町：宮川より汚い。水の色が緑。
揖保川町：泳いだらダメ。汚く、ゴミもたくさんある。
伊勢市大宮町：水は、きれいだけれど宮川村より汚い。
班のみんな：宮川も川へ泳ぎに行ったらゴミが落ちている(宮川の子供)。全国参加自治体の川にも宮川と同じように鮎がいる。

Q 自分達の街から川がなくなったら、どうしますか？

A ・宮川では、水力発電ができなくなる、森の番人が作れなくなってこまる。
・秋田こまち(お米)を育てる水がなくなりこまる
・十津川に住んでいる僕たちは、川に通じる谷から家に水を引いているので生きてはいけなくなる。
・魚が泳げない、植物が育たない、人間も生きていけなくなる。
・夏に川で遊べなくなる。
・鮎釣りが出来なくなる。
・工業、農業、漁業が出来なくなり、植物も育たないし人間も生きていけない。

コニコニ滝班

鶴川町 (小笠原勇哉) 寝屋川市 (嵯峨根 翼) 加茂川町 (佐々木曜子)
揖保川町 (岡山恭佑) 大宮町 (中村千寿) 紀勢町 (谷口 丈)
大台町 (出口りさ) 宮 小 (小倉大輝) 宮 小 (東 信行)
宮 小 (小西利香) 宮 小 (巽 理紗)

Q 自分達の街の川と宮川の違いは？

A 鶴川町：鶴川は、下流でもきれいな水にしかすめないヘビトンボがいたり、シシャモものぼってくる。魚の種類も多い。

寝屋川市：汚れている。汚れた水に住んでいる生き物がいる。

加茂川町：加茂川は、ちょっと濁っている。藻がついているけど宮川は、ついていない。

揖保川町：宮川より少し汚いが、上流のほうは、宮川よりきれいで魚もいっぱいいる。

紀勢町：宮川村より魚がいない。

大宮町大台町：宮川村の方がきれいで魚もたくさんいた。少し潜ったら魚がいた。

Q 自分達の街の川でどのような遊びが出来ますか？

A

- ・ボートに乗って釣りをする。(紀勢町)
- ・釣りをする。(寝屋川)
- ・石を投げて遊んだりする。
- ・泳げるほど水の量が多くないので、タニシを捕ったりする。
- ・水上ステージがあって水遊びが出来るようにつくられている。川原でも遊べるようになっている。(実存している)
- ・水泳、しゃくり、網をはって鮎を捕る。(宮川)
- ・水の量が多すぎて泳げない。(鶴川)

Q 8月19日の川の学校授業の感想は？

A

- ・しゃくりがおもしろかった。
- ・鶴川は、水量が多くて泳げないので、昨日、初めて川で泳いで楽しかった。
- ・発泡やぶれかぶれがよかった。
- ・急に深くなっている所が多かった。
- ・石を見つけるのが面白かった。
- ・しゃくりを見ていて面白かった。
- ・石のペインティングが楽しかった。

Q 川について思ったことは？

A

- ・家庭排水が流れこんだり、ゴミが落ちている。
- ・ヘドロが溜まって汚い。
- ・ダムが水を放流しないとにごる。
- ・水着に汚れがついたりする。
- ・魚のさしみの残り(残飯)を川に流したりして感じがわるい。

七ツ釜滝班

雄物川町 (佐藤真理) 十津川村 (下野雄大) 庄川町 (柴田恭佑)
加古川市 (藤原 晃) 紀勢町 (山本菜緒) 明和町 (堀 裕喜) 大宮町 (西村玲香)
宮 小 (巽 亮太) 宮 小 (余谷拓也) 宮 小 (浦中希世美)

Q 自分達の街の川と宮川の違いは？

A 雄物川町：学校で川遊びの時間はあるけど自分達で遊びに行くことはない。宮川は、どこまでも水が透明でびっくりした。水質検査の結果がそれほど悪くないと思っていたのに悪かったのでびっくりした。

十津川村：宮川のほうが川が深いと思った。

庄川町：宮川より流れが速いので川遊びはできない。

加古川町：宮川より水量が少なく、上流へいくとほとんど水もなく川遊びをするところが少ない。下流は、ゴミがすててあるのでほとんど川には入らないので川遊びをしたことがない。だから川遊びをしたり、飛び込んだりするところがほしい。

紀勢町：しゃくりをよくするけどドジョウをすくったりもよくする。大内山川より宮川の方が水が冷たい。

明和町：榊田川より宮川の方がきれい。

大宮町：川で泳いだり、魚釣りはするが、水生昆虫は見たことがなかった。驚きがあった。

宮小：ウズムシやトビゲラなどの水生昆虫にびっくりした。

※からすき谷の体験の中で一番感動したのは、「しゃくり」という子が多かった。なぜかというと、しゃくりをしたことや見たことがない人がほとんどだったから。

北海道とか遠いところの子と友達になれてよかった。宮川の子供達と友達になれてよかった。初めは、緊張していたけど、今は、たくさんの友達が出来た。

Q 川についての関心は、持っていましたか？

※テーマを「川について関心を持ったかどうか？」に変更。

A 川に行ってどのような遊びが出来るのか、どんなふうに過ごせるのかか考えるようになった。

隠れ滝班

鶴川町 (鍋城 緑) 宮川村 (大森浩輝) 菊川町 (新木優司) 加茂川 (大森由紀)
度会町 (油家良樹) 明和町 (中村砂帆子) 紀勢町 (中村美沙) 宮小 (中田未菜)
宮 小 (松林祐輔) 宮 小 (岡本良真)

Q 自分達の街の川と宮川の違いは？

A 鶴川町：川は、汚くないけど普段は、川で泳がない。
宮川村：宮川へきた全国の人たちは、宮川をきれいだと行ってくれるけど昔に比べると汚くなったと思う。
菊川町：菊川は、全国でも水が汚いと言われていて泳げない。住んでいる魚も種類が違い、ニゴイ、コイ、ブラックバスなどです。
宮川にきて初めて川で泳いだ。菊川には、ダムがないが、川岸がコンクリートできているところが多く、生活排水が流れ込むので水性生物が少ない。
菊の模様の石が出てきたので菊川という。
加茂川：魚は、釣れるが泳ぐ人は少ない。
度会町：度会町は、同じ宮川だけど宮川村と住んでいる魚が違う。住んでいるのは、おいかわやかかわむつが多い。宮川には、シマドジョウやアジメドジョウがいた。川の深さは、上流の方が深くて度会の方は、浅いところが多い。
明和町：ドブ川ぐらいしかない、泳ぐことはない。宮川は、広くて水がきれい。
紀勢町：宮川と比べると川の幅がせまい。川で泳いだりはする。

Q 自分の街の川でどのような遊びが出来ますか？

A 釣り、飛び込み、水切り、きれいな石ひろい、目立つ石をなげてその石を取りに行くという遊び、しゃくり、友釣りなど

与八郎滝班

滑川町 (吉澤克仁) 十津川村 (中 雄一) 菊川町 (小 篤 遥) 揖保川町 (竹内麻姫)
御菌村 (藤村あかね) 紀勢町 (西村侑樹) 大宮町 (梅田まどか) 多気町 (森田 潤)
宮 小 (松林史也) 宮 小 (森野正樹) 宮 小 (脇田紫帆)

Q 自分達の街の川と宮川の違いは？

A 滑川町：滑川は、都会なので汚くてとてもとても泳げません。
十津川村：川で飛び込みやすい所がないので、うらやましく思いました。
菊川町：ゴミが多く流れが急で危険です。
揖保川町：川を探検したり、カヌーに乗ったりして楽しんでいる。

御菌村大宮町：ゴミがおおくて問題になっている。
紀勢町：海の近くなのでボラなどがいるが、宮川にはいなかった。貝もいる。

Q 川についての関心は、もっていましたか？

A たくさんの方が関心を持っていました。大宮町では、総合学習の時間で、川についての勉強をしているので興味があります。また釣りが大好きな人もいました。十津川村の中君は、ウグイや鯉釣りが好きなのできれいな川を見るだけでワクワクするそうです。

光滝班

十津川村 (温井誠也) 江戸川区 (尾亦真理) 加茂川町 (鈴木聡史)
御菌村 (中村紗梨) 大宮町 (上田 愛) 宮 小 (杉松夏海) 宮 小 (保田直宏)
宮 小 (平野哲郎) 宮 小 (久保佳菜)

Q 自分達の街の川と宮川の違いは？

A 十津川村：宮川は、崖が多く、飛び込んだらとても深かった。
江戸川区：宮川は、きれい。魚の死骸が浮いていない。江戸川は、汚い。
加茂川町：宮川は、川の深いところも多いし、大きな岩があるのに加茂川は、小石ばかりで淋しい。
御菌村：同じ宮川なのに御菌村の方が水量が多い。
大宮町：宮川村の方が川の水が冷たい。

Q 川をきれいにするには、どうしたらいいですか？

A

- ・川が汚いと泳げない、魚がとれない、水も飲めないので生き物が死んでしまう。伊勢市などの下流の人は、宮川の水を浄化して飲んでいる。汚い水を飲んでいると思うといやなので下流に住んでいる人のことを思ってどうしたら川がきれいになるか考えてほしい。
- ・加茂川は、汚くヒルがいる。
- ・合成洗剤を流さない。油などは、固めて流さない。
- ・ゴミを減らす、捨てないで持ち帰る。ゴミを減らすためにきちんと分別したり、リサイクル運動したりする。缶などは、自動アキカンつぶし機をつかったりする。ゴミは、ゴミ箱にちゃんと捨てる。もしゴミ箱がなかったらゴミの山になるから。
- ・上流のダムから水をひいて家庭用水にする。
- ・十津川では、川原をきれいにするアルバイトがある。(実存している)
- ・川を汚さない法律を厳しくする。
- ・監視カメラをつける。
- ・植林をする。
- ・とにかく一人ひとり気をつける。ちょっとでも気をつければ、きれいになるのちがうかな。永遠には、無理かもしれないけれども。
- ・昔にもどるのがいい。

堂倉滝班

滑川町 (須澤直宏) 加古川 (田阪祐臣) 加茂川町 (日浦亜由美)
大宮町 (鳥羽香織) 度会町 (中世古唯) 大台町 (鈴木 静) 宮 小 (余谷侑耶)
宮 小 (松林宏高) 宮 小 (小掠俊輔) 宮 小 (中西伶菜)

Q 自分達の街の川と宮川の違いは？

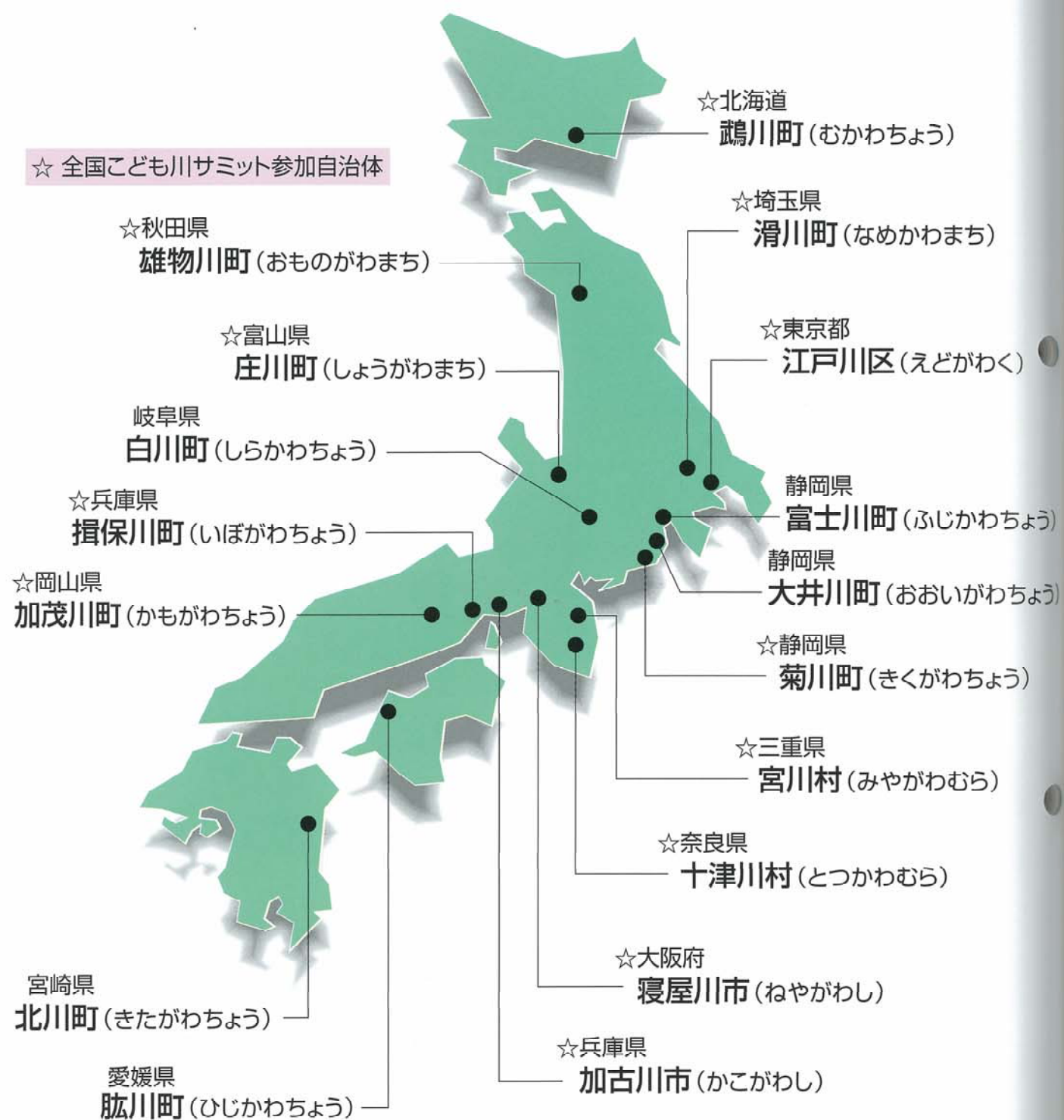
- A**
- ・宮川は、きれいに思われているけどだんだん汚くなっている。その理由は、車の排ガス、ゴミをほかって帰る観光客が増えたから。あと、ダムから汚い水が流れてくるから。
 - ・他の自治体の川は、すごく汚くて、川ではあまり遊べない。
 - ・宮川は、ゴミは少ないと思う。
 - ・宮川の下流は、汚れているのでヒラタドROMシなどの少しよごれた水に住む水生生物が多いが、からすき谷では、きれいな水に住む生物がいた。
 - ・滑川では、以前は泳げたけれど2年ぐらい前に事故があってから川で泳げなくなった。
 - ・宮川の水は、きれい。
 - ・宮川以外の子供達にどのような水生生物がいるかをきいたらブラックバス、ウグイ、コイなどがあるという答えがかえってきた。

Q 自分達の街から川がなくなったら、どうなりますか？

- A**
- ・川で遊べなくなる。
 - ・川の魚が食べられない。
 - ・農作物ができなくなる。
 - ・水力発電ができなくなる。

参考資料

第9回 全国川サミットin宮川 参加自治体一覧



かわ~った写真コンテスト入賞者

1 かわ~った写真コンテスト大賞

今中 勉 (奈良県十津川村) タイトル「休日になれば熊野川も賑やか」

2 かわいいで賞

村田武治 (三重県桑名市) タイトル「夏の日」

林 豊 (三重県松阪市) タイトル「ボクやだなア」

3 かわってるで賞

小島一男 (三重県伊勢市) タイトル「ああ~宮川に『ネッシー』が!!」

平まさる (三重県松阪市) タイトル「青空に泳ぐ日を夢見て」

4 入賞者

左近淑人 (三重県宮川村) タイトル「おいてかないでえ~ (私は影)」

寺添公朗 (三重県宮川村) タイトル「オーイ男前の顔を見せてヨッ」

岩谷栄祐 (三重県四日市市) タイトル「朝陽」

宮田多美男 (三重県大台町) タイトル「『投網漁』 今度はやったぞ!」

出口量造 (三重県松阪市) タイトル「じ~っと我慢、石の上にも3年、岩の上には1日」

新谷 純 (三重県伊勢市) タイトル「清流の秋宴」

徳田栄作 (三重県南勢町) タイトル「清流の中にゴミが? ゴミをなくし美しい川を」

松下茂男 (静岡県菊川町) タイトル「通りゃんせ水まんぼ (トンネル)」

山本幸勝 (三重県宮川村) タイトル「清流に駆ける」

長谷川裕壽 (三重県香良洲町) タイトル「河畔」

橋上 裕 (三重県伊勢市) タイトル「立てば芍薬 座れば牡丹 舞う姿はユリカモメ」

■川の学校に参加して下さったみなさん

